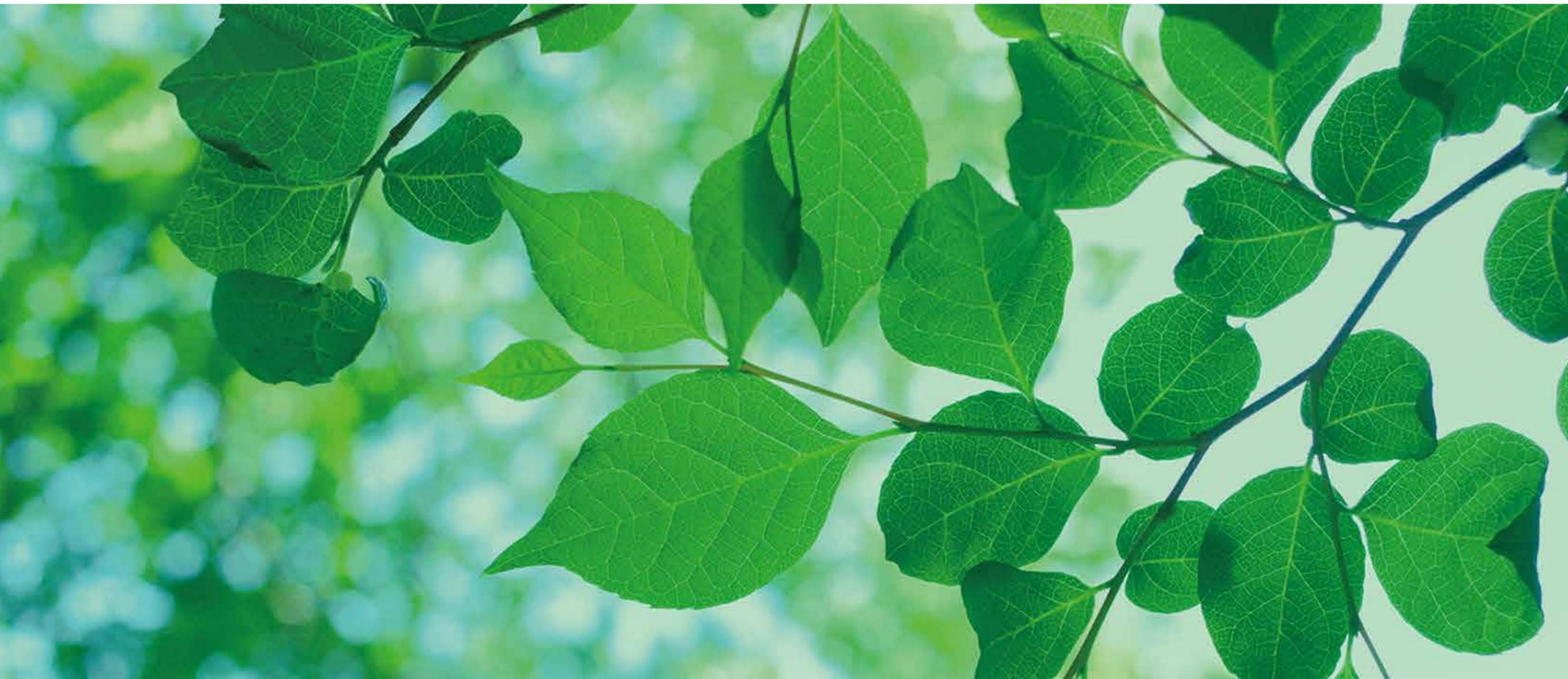


光ある喜びをあなたに



MIYATA EYE HOSPITAL



## 2024 年次報告書

医療法人明和会

宮田眼科病院

宮田眼科 鹿児島

宮田眼科 東京

【発行日】 2024年10月31日

【文責】 宮田眼科病院 医療連携室

# 光ある喜びを あなたに

## [ 目 次 ]

ごあいさつ	P. 03~04
病院概要・病院長プロフィール	P. 05~06
医師紹介	P. 07
新任医師紹介	P. 08
専門外来紹介	P. 09~12
網膜色素変性外来 / 緑内障外来	
トピックス	P. 13~20
◆ ちかさと霧島 PBM セミナー	
◆ 宮田眼科 東京 1周年記念感謝の会	
◆ 学術論文 白内障術後眼にみられる調節微動の特徴解析	
当院の最新治療・検査	P. 21~24
◆ ICL (有水晶体後房レンズ)	
◆ NGENUITY 3D ビジュアルシステム	
◆ 角膜クロスリンク	
◆ CYCLO G6 (マイクロパルス毛様体光凝固術)	
◆ 感染性眼疾患の分子生物学的解析	
◆ IPL	
当院の特徴	P. 25~26
◆ 移植手術/日帰り手術	
◆ 研究室・角膜センター/自己血由来点眼液の調製/蛍光顕微鏡検査	
各委員会・各会議の紹介	P. 27~30
新人スタッフ紹介	P. 31~32
研修・実習生の受け入れ	P. 33~34
治療機器・検査機器	P. 35~36
実績 (手術・治験)	P. 37~38
実績 (出版・論文)	P. 39~40
実績 (院内講演会)	P. 41~42
実績 (学会発表)	P. 43
施設概要・アクセス	P. 44~46



医療法人 明和会  
理事長  
宮田眼科病院  
院長  
宮田 和典

## 皆様との連携がスムーズに進みますよう 今後ともこの努力を継続し 更なる充実を図ってゆく所存です

巷に活気が戻り、観光地には国内外の旅行者の笑顔があふれる日々、皆様にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

今年も当院の活動報告をさせていただきます。

東京の四ツ谷駅前に開院した宮田眼科 東京もこの4月に2年目を迎えました。東京大学・東京医科歯科大学をはじめ交流のある大学医局の先生・開業医の先生方の温かい多大なるサポートを受け試行錯誤しながら進んでおります。このご恩は良い医療を提供することでお返ししなければと覚悟を新たにしている所存です。

また、宮田眼科 鹿児島は5月に開院20周年を迎え、新天地である鹿児島中央駅に直結したJR鹿児島中央ビルで多くの患者様に受診いただいております。これからも患者様に喜ばれるクリニックを目指し、診療レベルの向上、待ち時間の短縮、疾患の早期発見・治療などに一丸となって取り組んでいきたいと思っております。

都城の本院は1960年の設立以来、64年にわたり地域医療に従事してまいりました。そして日々診療に励む中で「標準治療だけでなく、患者一人一人に合った治療が必要ではないか」と考えるに至りました。自分の患者のエビデンスをもとに考え、診断・治療を行うこと、すなわち「Patient Based Medicine」の実践のはじまりです。私たちは、患者にベストな治療を行うため、従来の治療法をいわばカスタマイズし、自分の患者にベストな方法を探求しています。これからも、病院理念である「光ある喜びをあなたに」を胸にチーム医療を行っていきたく思います。そのためには、医療機関はじめ関係者の方々のお力添えが不可欠となります。今後とも、ご指導ご鞭撻のほど、心よりお願い申し上げます。



宮田眼科 鹿児島  
院長  
大谷 伸一郎

宮田眼科 鹿児島は、昨年の5月に鹿児島中央駅に直結したJR鹿児島中央ビル2階に移転しました。

立体駐車場も併設され、またバスターミナル、路面電車の電停も近接しており、県内一円はもとより、熊本、福岡等の県外も含めて、多くの患者様の通院の利便性向上を図ることができました。

御存知の通り、医学・医療の進歩は目覚ましく、眼科分野においても例外ではありません。一昔前までは常識であったものが現在では通用しないものも多々あります。現時点における最良の医療を提供するためには、常に情報収集に努め、最新の技術や医療機器の適格な選別ならびに導入が必須であると考えております。当院は、各医師が専門分野を担当しており、全国の大学病院や基幹病院と連携しながら常に医療のアップデートを心がけています。

「光ある喜びをあなたに」という宮田眼科病院の病院理念のもと、従来以上に皆様に信頼される医療を提供できるように努力してまいります。



宮田眼科 東京  
院長  
望月 學

宮田眼科 東京は、2024年4月に開院一周年を迎えました。開院より、眼科一般外来に加えて、緑内障、白内障、糖尿病網膜症、黄斑・網膜硝子体疾患、角膜疾患、ICL・屈折矯正、ぶどう膜炎など重要な眼疾患についてエキスパートによる専門外来を設け、大学病院レベルの眼科医療を患者様にご提供できる様に、努めてまいりました。

日を追う毎に大学及び基幹病院やご開業の先生方また、眼科以外の先生方からのご紹介が増加し、患者様それぞれにあったレベルの高い医療が、段々にご評価頂いたと考えております。

今年4月から、東京医科歯科大学で永年実績を積まれた高瀬博先生と、ぶどう膜炎外来に宮永将先生を新たに迎えて、更なるステップアップを図っております。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

## 医療法人明和会 宮田眼科病院

診 [眼科全般]  
療 [専門外来]  
科 白内障/多焦点眼内レンズ/緑内障/角膜/角膜変性症/  
円錐角膜/ICL/ぶどう膜炎/網膜硝子体/糖尿病眼/  
黄斑/強度近視/網膜色素変性/ロービジョン/  
斜視弱視/神経眼科/小児眼科/眼形成/眼瞼/糖尿病/  
頸動脈/義眼

DATA  
所在地 〒885-0051 宮崎県都城市蔵原町6-3  
電話 0986-22-1441 FAX 0986-24-2174  
院長 宮田和典  
病床数 71床  
URL <https://www.miyata-med.ne.jp>

職員数		合計192名 (2023年12月31日現在)		
医師	常勤 14名	非常勤 22名	計 36名	
薬剤師	2名	0名	2名	
臨床検査技師	2名	0名	2名	
正看護師	63名	3名	66名	
准看護師	18名	3名	21名	
看護助手	1名	1名	2名	
視能訓練士	10名	3名	13名	
受付・医事会計・予約	13名	5名	18名	
メディカルクラーク	1名	0名	1名	
事務室	10名	2名	12名	
管理栄養士	3名	0名	3名	
調理師及び調理員	3名	6名	9名	
その他	4名	3名	7名	
合計	144名	48名	192名	



医療法人明和会 理事長  
宮田眼科病院 院長  
宮田 和典

- [各種団体役職]  
(2024年9月現在)
- ◆ 日本眼科学会評議員
  - ◆ 日本眼科手術学会監事
  - ◆ 日本角膜学会監事
  - ◆ 日本角膜学会評議員
  - ◆ 日本角膜移植学会理事
  - ◆ 日本白内障屈折矯正手術学会理事
  - ◆ 日本白内障学会評議員
  - ◆ 日本アイバンク協会理事
  - ◆ 宮崎県アイバンク協会理事
  - ◆ 宮崎県眼科医会理事

- 略 1984年 3月 久留米大学医学部医学科 卒業  
歴 6月 東京大学医学部眼科 入局  
1986年 1月 東京大学医学部眼科 助手  
12月 武蔵野赤十字病院眼科 医員  
1991年 2月 東京大学医学部眼科 講師  
1994年 9月 カリフォルニア大学サンフランシスコ校 留学  
1997年 4月 医療法人明和会宮田眼科病院 副院長  
1998年 4月 東京大学医学部眼科 非常勤講師(1998 - 2018)  
1999年 4月 医療法人明和会宮田眼科病院 院長  
2000年 4月 宮崎大学(前宮崎医科大学)臨床教授 兼任  
2008年 4月 医療法人明和会理事 宮田眼科病院 院長  
現在に至る

## 医療法人明和会 宮田眼科 鹿児島

診 [眼科全般]  
療 [専門外来]  
科 白内障/緑内障/屈折矯正(ICL・オルソケラトロジー)  
黄斑・網膜硝子体/糖尿病眼/角膜/  
ぶどう膜炎/甲状腺眼症

DATA  
所在地 〒890-0045 鹿児島市武1丁目2-10  
JR鹿児島中央ビル AMU WE 2階  
電話 099-286-1213 FAX 099-286-1190  
院長 大谷伸一郎

URL <https://kagoshima.miyata-med.ne.jp>

職員数		合計48名 (2023年12月31日現在)		
医師	常勤 3名	非常勤 8名	計 11名	
看護師	5名	2名	7名	
准看護師	1名	0名	1名	
視能訓練士	10名	0名	10名	
医事会計	7名	0名	7名	
メディカルクラーク	5名	0名	5名	
その他	5名	0名	5名	
合計	36名	10名	46名	



医療法人明和会  
宮田眼科 鹿児島 院長  
大谷 伸一郎

- 略 1991年 鹿児島大学医学部 卒業  
歴 6月 鹿児島大学医学部麻酔蘇生科 入局  
1993年 山口大学医学部第二内科  
国立南九州中央病院麻酔科  
1995年 鹿児島県立鹿屋病院麻酔科  
1996年 鹿児島県立大島病院麻酔科  
1998年 医療法人明和会宮田眼科病院  
2009年 医療法人明和会鹿児島宮田眼科 院長  
2023年 5月 医療法人明和会宮田眼科 鹿児島 院長  
現在に至る

## 医療法人明和会 宮田眼科 東京

診 [眼科全般]  
療 [専門外来]  
科 白内障/緑内障/黄斑・網膜硝子体/糖尿病網膜症/  
ぶどう膜炎/角膜/ICL・屈折矯正

DATA  
所在地 〒160-0004 東京都新宿区四谷1丁目2-8  
四谷THビル 6階  
電話 03-5315-4334 FAX 03-5315-0687  
院長 望月 學

URL <https://tokyo.miyata-med.ne.jp/>

職員数		合計20名 (2023年12月31日現在)		
医師	常勤 2名	非常勤 10名	計 12名	
看護師	2名	0名	2名	
准看護師	0名	0名	0名	
視能訓練士	2名	0名	2名	
医事会計	3名	0名	3名	
メディカルクラーク	0名	0名	0名	
その他	1名	0名	1名	
合計	10名	10名	20名	



医療法人明和会  
宮田眼科 東京 院長  
望月 學

- 略 1973年 九州大学医学部 卒業  
歴 1974年 東京大学眼科 研修医  
1979年 東京大学眼科 助手  
1981年 東京大学眼科 講師  
1981年 米国国立眼研究所 留学  
1986年 東京大学眼科 助教授  
1990年 久留米大学眼科 教授  
1998年 東京医科歯科大学眼科 教授  
2013年 東京医科歯科大学 名誉教授  
宮田眼科病院 外来指導医  
2023年 4月 医療法人明和会宮田眼科 東京 院長  
現在に至る

# 医師紹介



医療法人 明和会  
理事長  
宮田眼科病院  
院長  
みやた かずのり  
宮田 和典

- ◆医学博士
- ◆眼科専門医
- ◆ICD 認定医



医療法人 明和会  
宮田眼科 鹿児島  
院長  
おおたに しんいちろう  
大谷 伸一郎

- ◆医学博士 ◆眼科専門医
- ◆麻酔科標榜医 (厚生労働省認定)
- ◆日本麻酔科学会麻酔科認定医



医療法人 明和会  
宮田眼科 東京  
院長  
もちづき まなぶ  
望月 學

- ◆医学博士
- ◆眼科専門医
- ◆東京医科歯科大学名誉教授



宮田眼科病院  
副院長・病棟医長  
 Shimajima Ryohei  
子島 良平

- ◆医学博士 ◆眼科専門医
- ◆ICD 認定医 ◆ICL 認定医



医療法人 明和会  
統括診療部長  
もり ようさい  
森 洋斉

- ◆医学博士
- ◆眼科専門医
- ◆ICL 認定医



宮田眼科 東京  
診療部長  
てらだ ゆきこ  
寺田 裕紀子

- ◆眼科専門医
- ◆眼科 PDT 認定医
- ◆補装具指定医



宮田眼科 鹿児島  
副院長  
かがや ふみえ  
加賀谷 文絵

- ◆医学博士
- ◆眼科専門医
- ◆補装具指定医



宮田眼科 鹿児島  
診療部長  
たぐち ちかこ  
田口 千香子

- ◆医学博士
- ◆眼科専門医



宮田眼科 東京  
たかせ ひろし  
高瀬 博

- ◆医学博士
- ◆眼科専門医



宮田眼科病院  
内科部長・研究室長  
いwasaki takuya  
岩崎 琢也

- ◆医学博士 ◆補装具指定医
- ◆一般内科医
- ◆鹿児島大学非常勤講師



宮田眼科病院  
外来医長  
かいだ ともこ  
貝田 智子

- ◆医学博士 ◆眼科専門医
- ◆補装具指定医
- ◆神経眼科上級相談医



宮田眼科 鹿児島  
はなや じゅんこ  
花谷 淳子

- ◆眼科専門医
- ◆補装具指定医



宮田眼科病院  
副診療部長  
さきさか としひろ  
向坂 俊裕

- ◆医学博士 ◆眼科専門医



医局長  
うえだ こうじ  
上田 晃史

- ◆眼科専門医



副医局長  
よこがわ ともひろ  
横川 知弘

- ◆眼科専門医



医局員  
かなや えりこ  
金谷 恵理子  
※筑波大学より出向



医局員  
みずぐち のりお  
水口 法生  
※筑波大学より出向

- ◆眼科専門医

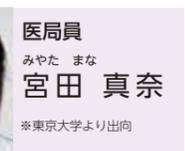


医局員  
とやま なおき  
外山 直樹  
※宮崎大学より出向

- ◆眼科専門医



医局員  
いしはら まさと  
石原 誠都  
※大阪大学より出向



医局員  
みやた まな  
宮田 真奈  
※東京大学より出向

- ◆眼科専門医



医局員  
うえまつ けんたろう  
上松 健太郎  
※宮崎大学より出向

- ◆眼科専門医



医局員  
てつむら いっせい  
鉄村 一晟  
※東京大学より出向

- ◆眼科専門医

# 新任医師紹介

## 副医局長

## 横川 知弘



皆様、初めまして。眼科医の横川知弘と申します。この度、宮田眼科病院での勤務が決まり、大変光栄に思っております。以前、こちらで研修を受けさせていただいた経験がありますが、この度改めて勤務することになりました。私はこれまでの臨床経験を活かし、患者様によりよい医療を提供できるよう努めて参ります。また、当院ではたくさんの臨床研究を実施しており、その研究結果を地域の皆様に還元することを心がけてまいります。地域の皆様の声に寄り添い、お困りのことを解決し、見え方の向上に貢献していきたいと考えております。まだまだ至らない点多々あるかと思いますが、精一杯努めて参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。



## 医局員

## 上松 健太郎



宮崎大学より赴任しました上松健太郎と申します。2022年まで小児科に携わってききましたが、2023年より宮崎大学医学部附属病院にて眼科を学ばせていただき、本年度より宮田眼科病院に赴任いたしました。目が見えるようになるという、生活するうえで大切なことを支える医療に携わることができて大変うれしく思います。同時に、それに対する責任も重大だと考えています。患者様と一緒に、目について向き合っていきます。至らぬ点多いとは思いますが、精進してまいりますので何卒よろしくお願いいたします。



## 医局員

## 鉄村 一晟



4月より東京大学から赴任しました鉄村一晟と申します。この度は、宮田眼科病院のスタッフの一員となったことを大変うれしく思います。都城は私にとって初めての土地ではありますが、霧島山地をはじめ、豊かで美しい自然に囲まれ、過ごしやすい場所であると感じております。温かく迎えてくださったスタッフの方々や地域の皆様に心より感謝申し上げます。私が眼科という道を選んだのは、医療を通じてQOLを向上させる仕事がしたいと考えて、視機能が最もQOLにかかわるものだと感じました。患者様にとって安心かつ安全な最高水準の医療を提供できるよう、ご本人様やご家族と誠心誠意向き合い、眼の健康の促進に尽くして参りたいです。



## 目指すは最新、最高の医療の提供

当院では専門外来を確立し、疾病毎のエキスパートである大学の先生方をお迎えして、特別専門外来診察を毎月1回行っております。各先生方にご高診いただくと共に、当院の医師の習熟に努め、患者様に対しては、地方においても最新で最高の医療を提供すべく、日々努力致しております。

### 宮田眼科病院

専門外来名	・・・当院担当医		・・・特別専門外来担当医	
白内障外来	宮田 和典	子島 良平	森 洋斉	向坂 俊裕
多焦点眼内レンズ外来	宮田 和典	子島 良平	森 洋斉	
緑内障外来	大谷 伸一郎 貝田 智子	相原 一 本庄 恵	(東京大学 教授) (東京大学 准教授)	
角膜外来	宮田 和典 子島 良平 森 洋斉	榛村 重人 宮井 尊史	(藤田医科大学 教授) (東京大学 准教授)	
角膜変性症外来	宮田 和典 子島 良平	宮井 尊史	(東京大学 准教授)	
円錐角膜外来	宮田 和典 森 洋斉	子島 良平 神谷 和孝	(北里大学 教授)	
ICL外来	宮田 和典 森 洋斉	子島 良平 神谷 和孝	(北里大学 教授)	
ぶどう膜炎外来	望月 學	寺田 裕紀子 田口 千香子		
網膜硝子体外来	森 洋斉 高瀬 博	岡本 史樹	(日本医科大学付属病院 大学院教授)	
糖尿病眼外来	森 洋斉	加藤 聡	(前東京大学 准教授)	
黄斑外来	森 洋斉 向坂 俊裕 寺田 裕紀子	岡本 史樹 小畑 亮	(日本医科大学付属病院 大学院教授) (虎の門病院 部長) (前東京大学 准教授)	
強度近視外来	貝田 智子	寺田 裕紀子		
網膜色素変性外来	貝田 智子 小野 喬	池田 康博	(宮崎大学 教授)	
ロービジョン外来		加藤 聡	(前東京大学 准教授)	
斜視弱視・神経眼科外来	貝田 智子	中馬 秀樹 木村 亜紀子	(宮崎大学 准教授) (宮崎大学医学部附属病院 病院教授) (やさしい目のクリニック 院長) (前兵庫医科大学 准教授)	
小児眼科外来	貝田 智子	中馬 秀樹	(宮崎大学 准教授) (宮崎大学医学部附属病院 病院教授)	
眼形成・眼瞼外来	大谷 伸一郎 向坂 俊裕	垣淵 正男	(兵庫医科大学 主任教授)	
糖尿病外来	岩崎 琢也	上野 浩晶	(宮崎大学 講師)	
頸動脈外来	岩崎 琢也	貴島 俊英	(柏村内科)	
義眼外来		光安 哲人	(有限会社アツザワ・プロテーゼ九州)	

### 宮田眼科 鹿児島

専門外来名	担当医	スーパーバイザー
白内障(特殊)外来	宮田 和典 森 洋斉	大鹿 哲郎 (筑波大学 教授)
緑内障外来	大谷 伸一郎 加賀谷 文絵 上田 晃史	相原 一 (東京大学 教授) 本庄 恵 (東京大学 准教授)
屈折矯正外来 (ICL)	森 洋斉 子島 良平	神谷 和孝 (北里大学 教授)
屈折矯正外来 (オルソケラトロジー)	加賀谷 文絵 田口 千香子	平岡 孝浩 (筑波大学 准教授)
黄斑・網膜硝子体外来	森 洋斉 田口 千香子	岡本 史樹 (日本医科大学付属病院 大学院教授) 小畑 亮 (虎の門病院 部長) (前東京大学 准教授)
糖尿病眼外来	森 洋斉 田口 千香子	加藤 聡 (前東京大学 准教授)
角膜外来	子島 良平 森 洋斉	宮井 尊史 (東京大学 准教授)
ぶどう膜炎外来	田口 千香子	望月 學 (東京医科歯科大学 名誉教授) (宮田眼科東京 院長)
甲状腺眼症外来	貝田 智子	木村 亜紀子 (やさしい目のクリニック 院長) (前兵庫医科大学 准教授)

### 宮田眼科 東京

専門外来名	担当医
白内障外来	寺田 裕紀子 (眼科専門医) 宮田 和典 (宮崎大学 臨床教授) 高瀬 博 (前東京医科歯科大学 病院教授)
緑内障外来	相原 一 (東京大学 教授) 本庄 恵 (東京大学 准教授) 高瀬 博 (前東京医科歯科大学 病院教授)
黄斑・網膜硝子体外来	岡本 史樹 (日本医科大学付属病院 大学院教授) 小畑 亮 (虎の門病院 部長) (前東京大学 准教授) 森 樹郎 (前虎の門病院 部長)
糖尿病網膜症外来	加藤 聡 (前東京大学 准教授) 北野 滋彦 (前東京女子医科大学 糖尿病センター眼科教授)
ぶどう膜炎外来	望月 學 (東京医科歯科大学 名誉教授) 高瀬 博 (前東京医科歯科大学 病院教授) 宮永 将 (東京医科歯科大学 臨床准教授) 寺田 裕紀子 (眼科専門医)
角膜外来	宮井 尊史 (東京大学 准教授) 宮田 和典 (宮崎大学 臨床教授)
ICL・屈折矯正外来	神谷 和孝 (北里大学 教授)

## 網膜色素変性外来

[主な疾患]  
網膜色素変性症



宮崎大学  
教授  
池田 康博



宮田眼科病院  
外来医長  
貝田 智子

### 診察にあたって

この専門外来では、定型(杆体錐体ジストロフィ)、無色素性網膜色素変性、中心型・傍中心型網膜色素変性、色素性傍静脈周囲網脈絡膜萎縮、白点状網膜症、Usher症候群、Bardet-Biedl症候群、錐体杆体ジストロフィ、Leber先天盲、コロイデミア、クリスタリン網膜症の病型診断と定期検査を行います。また、年に1回、宮崎大学 池田 康博教授の診察を受け、病期進行の程度や適切な治療法の確認を行います。さらに、日々進歩する知見について患者に説明し、最新の治療を享受できる機会としています。

### 病気の概要・治療

網膜色素変性症とは、網膜の視細胞と色素上皮細胞が変性し、夜盲、視野狭窄、視力低下を自覚する進行性の疾患です。

遺伝子変異を原因とし、多くの病型に分けられています。基本的には進行性の病気ですが、その進行はとても緩やかで、数年あるいは数十年をかけて進行します。また病状の進行速度には個人差がみられ、症状の起こる順序にも個人差があります。残念ながら、現在のところ根本的な治療法は見つかっていません。

主な治療は病気の進行を遅らせることが目的となります。現在、網膜再生治療や人工網膜などの研究、遺伝子治療など様々な研究が行われています。

また、白杖や各種補装具(遮光眼鏡や拡大読書鏡など)の使用や、物のコントラスト(色の濃淡)をより鮮明にするなど少しの工夫で、生活が楽になるような提案もしております。



[ 視野狭窄の変化 ]

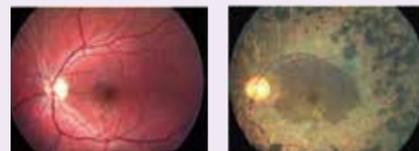
病気が進行すると視野が狭くなります



器を白から黒に変えると、食物も見易くなります

### 検査

検査は、視力、眼圧、細隙灯による前眼部・中間透光体・眼底検査、レーザー前房蛋白細胞数、光干渉断層計、眼底自発蛍光、視野、網膜電図を行います。網膜色素変性症の合併症として白内障、網膜前膜、嚢胞様黄斑浮腫があり、特に嚢胞様黄斑浮腫は発症早期で治療に反応しやすいため、早期発見のため3か月に1度の精査をお勧めします。



正常な眼底

網膜色素変性症の眼底

### 医療助成制度

網膜色素変性症は特定疾患の対象疾患に指定されていますので、厚生労働省の医療助成制度が受けられます。手続きは居住地の市役所を通じて行います。

必要な書類や手続き方法、受けられる医療機関などは都道府県によって異なるので、管轄の市役所にお問合せ下さい。

## 緑内障外来

[主な疾患]  
緑内障



宮田眼科 鹿児島  
院長  
大谷 伸一郎



宮田眼科病院  
医局長  
上田 晃史



東京大学  
教授  
相原 一



東京大学  
准教授  
本庄 恵

### 診察にあたって

「緑内障」とは、視神経が障害されることにより、見える範囲(視野)が徐々に狭くなる病気です。決して珍しい病気ではなく、40歳以上の20人に1人の割合で発症するといわれています。

いちど失った視野は、現代の医学では回復させることは不可能であり、緑内障と診断された後は、その進行を緩やかにすることが治療の主目的となります。そのため、生涯にわたって不自由のない視機能を維持するためには、早期発見と早期からの適切な治療が大切です。

これまでの研究により、眼圧を下げることによって、緑内障の進行が緩やかになることが分かっています。その方法として、薬物、レーザー、手術治療などがあり、緑内障の病態や進行状態に応じて、適切な方法を選択する必要があります。

緑内障は一定期間の治療で完了することではなく、生涯にわたる治療の継続が必要です。そのため、当院緑内障外来では、患者様自身が、緑内障について理解し、積極的に治療に参加することが必須だと考えており、治療方針について平易な言葉でわかりやすく説明するように心がけています。

### 主な治療内容

隅角が開いているタイプの緑内障(開放隅角緑内障と正常眼圧緑内障)では、薬で眼圧を下げる治療から開始します。閉塞隅角緑内障では、レーザーや手術による治療が選択されることもあります。

- 1) 点眼治療  
通常1種類を使用して治療を始めますが、患者さんの状態に応じて2種類以上使用して治療する場合があります。
- 2) レーザー治療  
レーザー虹彩切開術(LI)、選択的レーザー線維柱帯形成術(SLT)など
- 3) 手術
  - ①低侵襲緑内障手術
    - ・線維柱帯切開術(眼内法)
    - ・白内障手術併用ドレーン(iStent)
  - ②濾過手術
    - ・線維柱帯切除術
    - ・インプラント挿入術(プリザーフロ、エクスプレス)
    - ・濾過胞再建術(ニードリング)

緑内障は治る(良くなる)ことはありませんので、治療の目的は眼圧を下げて進行を抑制することにあります。私たちは眼圧、病型や進行の程度、そして患者さんの年齢などから総合的に判断してオーダーメイドの治療を提案しています。

# ちかさと霧島 PBM セミナー

ちかさと霧島PBMセミナーは、前身の霧島眼科研鑽会より継承し、2023年4月の宮田眼科 東京開院を機に、相原 一先生(東京大学 教授)、望月 學(宮田眼科 東京 院長)、宮田 和典(医療法人明和会 理事長)を代表世話人として、首都圏と南九州の先生方を対象として2023年9月より開始いたしました。

前身である霧島眼科研鑽会は、1998年に霧島眼科研鑽会初回を経て、南九州の先生方を対象に1999年の第1回霧島眼科研鑽会から2023年まで32回、25年にわたり開催してまいりました。1999年に望月 學先生、2013年、2021年は相原 一先生にご講演いただいております。第30回からはWeb開催としております。

ちかさと霧島PBMセミナーの由来は、首都圏の

**ち**(千葉)  
**か**(神奈川)  
**さ**(埼玉)  
**と**(東京)

の頭文字+霧島(霧島研鑽会/南九州)+PBM(Patient Based medicine)を掛け合わせたものです。

無料のWeb開催を原則としておりますが、第3回はスペシャル版として、現地与Webのハイブリッド開催となりました。

第4回の開催より日本眼科学会生涯教育の定期事業としても認定されました。

## <これまでの経緯>

1998年	霧島眼科研鑽会初回
1999年	第1回霧島眼科研鑽会
・ 南九州の先生方を対象 ・ 1999年 望月 學先生 ・ 2013、2021年 相原 一先生	
2023年	第32回霧島眼科研鑽会 (ウェビナー)
	宮田眼科 東京開院 (4月)
	第1回ちかさと霧島PBMセミナー (9月)
	第2回ちかさと霧島PBMセミナー (12月)
2024年	第3回ちかさと霧島PBMセミナー
	スペシャル版 ハイブリッド開催 (3月)
	第4回ちかさと霧島PBMセミナー (6月)



過去の霧島眼科研鑽会の様子

## 第1回 ちかさと霧島PBMセミナー

日時：2023年9月20日(水) Web開催

### 講演I

#### ◆ぶどう膜炎診療アップデート

講師：望月 學

(宮田眼科 東京 院長、東京医科歯科大学 名誉教授)

座長：宮田 和典(医療法人明和会 理事長)

### 講演II

#### ◆白内障診療アップデート

講師：宮田 和典(医療法人明和会 理事長)

座長：相原 一(東京大学 教授)

### 講演III

#### ◆緑内障診療アップデート

講師：相原 一(東京大学 教授)

座長：望月 學

(宮田眼科 東京 院長、東京医科歯科大学 名誉教授)

第1回は代表世話人の3名の先生が講師と座長を掛け持ちしての開催で、首都圏、南九州だけでなく各地からご参加いただきました。参加者は280名を超えました。



## 第2回 ちかさと霧島PBMセミナー

日時：2023年12月20日(水) Web開催

### 講演I

#### ◆糖尿病網膜症のトピックス

講師：北野 滋彦

(前東京女子医科大学 糖尿病センター眼科 教授)

座長：宮田 和典(医療法人明和会 理事長)

### 講演II

#### ◆エビデンスに基づいた屈折矯正手術

～ワンランク上のICL手術を目指して～

講師：神谷 和孝(北里大学 教授)

座長：望月 學

(宮田眼科 東京 院長、東京医科歯科大学 名誉教授)

### 講演III

#### ◆黄斑前膜の視機能と手術適応

講師：岡本 史樹(日本医科大学付属病院大学院 教授)

座長：相原 一(東京大学 教授)

専門外来で診療にあたっていただいている3名の先生方にご講演いただきました。座長が代表世話人も務めました。250名を超えるご参加がありました。



### 第3回 ちかさと霧島PBMセミナー

日時：2024年3月30日(土)  
 場所：六本木アカデミーヒルズ 49F スカイスタジオ + Web 開催

講演I

- ◆見逃しやすい糖尿病網膜症所見  
 講師：平形 明人(杏林大学医学部眼科学教室 教授)  
 座長：望月 學  
 (宮田眼科 東京 院長、東京医科歯科大学 名誉教授)

講演II

- ◆角結膜疾患の診療エッセンス、そして雑談  
 講師：木下 茂(京都府立医科大学 共同研究講座感覚器未来医療学 教授)  
 座長：宮田 和典(医療法人明和会 理事長)

宮田眼科 東京開院365日目にあたる第3回は、記念として重鎮の先生お二人をお迎えし、現地とWebの同時開催のハイブリッド形式で行いました。年度末の最終土曜日の夕方にもかかわらず、現地に70名、Webで130名を超えるご参加をいただきました。



講演I講師 平形 明人教授



講演II講師 木下 茂教授



オープニング風景



会場の風景



講演I座長 望月院長



講演II座長 宮田理事長

### 第4回 ちかさと霧島PBMセミナー

日時：2024年6月12日(水) Web 開催

講演I

- ◆角膜診療プラスアルファ：  
 ～円錐角膜と上皮再生医療の臨床～  
 講師：宮井 尊史(東京大学 准教授)  
 座長：宮田 和典(医療法人明和会 理事長)

講演II

- ◆実地医家におけるぶどう膜炎診療  
 講師：高瀬 博(宮田眼科 東京、前東京医科歯科大学病院 教授)  
 座長：相原 一(東京大学 教授)

講演III

- ◆低侵襲緑内障手術のすすめ  
 講師：本庄 恵(東京大学 准教授)  
 座長：高瀬 博(宮田眼科 東京、前東京医科歯科大学病院 教授)



第4回は、2024年4月から宮田眼科 東京で診療を開始された高瀬先生と、専門外来で診療されている2名の先生方にご講演いただきました。座長は代表世話人の宮田先生と相原先生に加えて高瀬先生が務められました。250名を超えるご参加をいただいております。

#### 2024年4月より、宮田眼科 東京で高瀬先生の診療を開始しました。

ご挨拶

ぶどう膜炎および白内障、緑内障、網膜硝子体疾患の各種手術を専門として、長年にわたり大学病院及びその関連施設において診療、研究、教育を行って参りました。これまでの経験を活かし、患者様に寄り添いながら、最適な医療を提供すべく努力を続けて参ります。

高瀬 博



# 宮田眼科 東京 1周年記念感謝の会

2024年3月30日、普段お世話になっております関係者の皆様をお招きして、六本木アカデミーヒルズにて、宮田眼科 東京1周年記念感謝の会を開催しました。



宮田理事長、望月院長によるご挨拶



木下 茂先生より祝辞



平形 明人先生より乾杯のご発声



前田 利根先生より祝辞



Miyata Eye Hospital

## 1周年記念に心温まるお祝いのビデオメッセージをいただきました。

宮田眼科 東京は白内障や緑内障、ぶどう膜炎などのいずれの疾患においても専門家の先生にコンサルトできる、患者さんを安心してお送りできるクリニックです。私も緑内障の担当として宮田眼科 東京を盛り上げていければなと思っております。2年目に入りまして益々飛躍の年になると思いますので、一丸となって頑張っていきたいと思っております。

相原 一先生 (東京大学 教授)



宮田 和典先生は、地域の患者様に日本でも最高レベルの医療を届けるのだという強い気持ちで宮崎、鹿児島で医療を提供されてきました。その思いを東京で展開しようということで四谷にて開業されました。東京は激戦区ではありますが、私を含め、宮田先生を慕う眼科医が多くおります。そうした眼科医の専門知識や技量を結集して、日本最高ないしは世界でもトップレベルの医療を提供されています。宮田先生の強い思いが実り、宮田眼科東京が益々発展していくことを祈っております。

大鹿 哲郎先生  
(日本眼科学会 理事長、筑波大学眼科 教授)

眼科医療は飛躍的に進歩し、多くのアンメットニーズに次々と応えられるようになっていきます。しかしながらそれに比例して、診療をお受けになられる側の要求度も以前より随分高くなってきています。そうした中、Patient-Based Medicineをビジョンに掲げる宮田眼科と、先進医療を担う大学の医師とがスクラムを組み、トータルかつハイグレードのチーム医療を地域に提供することは大変素晴らしいことであり、今後の眼科医療のひとつの方向性ではないかと拝察致します。今後も患者様に寄り添った温かな医療を展開されていくことを期待しております。

大橋 裕一先生 (前愛媛大学 総長)



## 1周年記念感謝の会によせて

「宮田眼科 東京・開院1周年記念感謝の会」には、多くの先生方のご来賓を賜り、また、心温まるお言葉もいただき、心より感謝申し上げます。皆様方のご指導・ご支援のお陰を持ちまして、宮田眼科東京は「開院1年」の節目を無事に迎えることができました。この「一年間」はたとえて言えば、長い「助走」の期間であったかと思っております。そしてホップ、ステップ、ジャンプと飛躍する準備が整ったと感じております。これもひとえに皆様方の暖かいご支援とご指導の賜物と、院長として心からの御礼を申し上げます。

「大学レベルの医療を駅前のクリニックで」をモットーに、専門外来の先生方のご協力をいただきながら頑張りたいと思っております。今後もスタッフ一同、より良い医療の提供のために研鑽を続けてまいりますので、ご指導・ご支援のほどお願い申し上げます。

宮田眼科 東京 院長 望月 學

Prevalence of Accommodative Microfluctuations in Eyes after Cataract Surgery  
J Clin Med. 2023 Aug 5;12(15):5135.

# 白内障術後眼にみられる調節微動の特徴解析

## 背景

白内障術後に眼精疲労を自覚する症例を経験します。眼精疲労の原因の中でも、近年、近業作業が増えており、毛様体への調節負荷による調節痙攣が注目されています。調節痙攣は調節微動が増加して発症しますが、従来、眼内レンズ (intraocular lens : IOL) 挿入眼では調節機能が制限されるため、調節微動の検討は殆ど行われていません。

## 対象と方法

2018年1月から2020年10月に白内障手術を行った患者で、単焦点 IOL 挿入例、713例 1160眼を対象としました。白内障術後2ヵ月(2M)と術後6ヵ月(6M)に、アコモレフ Speedy-i(ライト製作所)を用いて、0D、-1、-2、-3D 調節負荷時の調節微動を測定しました。

『ここで、調節微動の測定値 高周波成分出現頻度 について説明します。

調節微動とは、一定の距離にピントを合わせている状態でみられる屈折値の揺らぎのことで、調節負荷による持続的な調節輻湊の際に生じる屈折値の小さな変動を表します。この調節微動は、0.6Hz 以下の低周波成分 (low-frequency components : LFC) と、1.0 ~ 2.3Hz の高周波成分 (high-frequency components : HFC) の2つの帯域パターンから構成され、HFCは毛様体筋やチン小帯の動きに由来し、HFCの出現頻度は調節負荷や調節痙攣で増加し、眼精疲労の指標となります。アコモレフ Speedy-iは、調節負荷時の他覚屈折値の微動を測定し、1.0 ~ 2.3Hz 帯成分の出現頻度を積算した値を、高周波成分出現頻度 : HFC 値としています。HFC 値は 65 以上を高値とし、高値 HFC は調節痙攣と診断します。』

検討項目は、HFC 値と調節負荷、年齢、術後自覚屈折の関係、高値 HFC の割合、高値 HFC の割合と年齢、眼軸長の関係です。

## 結果

HFC 値は、術後 2M、6M ともに調節負荷で高くなりました (p<0.001、図1A、B)。

図1 HFC 値の平均

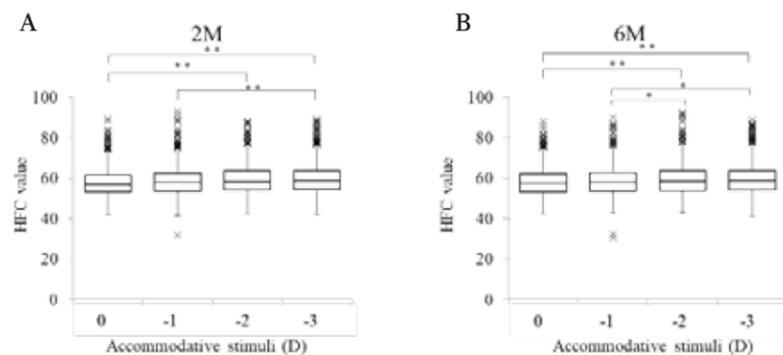


図1:  
A: 白内障術後 2M における IOL 挿入眼への調節負荷時の High frequency component values (HFC 値) 0D と -2D (p<0.001)、0D と -3D (p<0.001)、-1D と -3D (p<0.001) で有意に増加した。  
B: 白内障術後 6M における IOL 挿入眼への調節負荷時の High frequency component values (HFC 値) 0D と -2D (p<0.001)、0D と -3D (p<0.001)、-1D と -2D (p=0.032)、-1D と -3D (p=0.0031) で有意に増加した。  
\*\*: p<0.001



宮田眼科病院 外来医長  
貝田 智子

医学博士、眼科専門医  
補装具指定医  
神経眼科上級相談医

調節安静位 (0D 調節負荷時) の HFC 値と、年齢、術後自覚屈折との間に相関はありませんでした (年齢 2M:p=0.462,6M:p=0.912) (自覚屈折 2M:p=0.940,6M:p=0.569)。

高値 HFC の割合については、全調節負荷中 1 回以上高値 HFC (≥ 65) を示した眼の総数は、2M で 33.4% (386 眼)、6M で 34.7%

(405 眼) で、2M と 6M の間に有意差はありませんでした。高値 HFC を示した眼の患者の年齢分布とその比率に関しては、2M と 6M ともに、有意な傾向は見られませんでした (表 1)。

眼軸長については、26mm 以上の眼は 124 眼、26mm 未満の眼は 1036 眼でした。高値 HFC の割合と眼軸長の関係については、高値 HFC は、2M において、眼軸長 26mm 未満の眼よりも眼軸長 26mm 以上の眼で有意に多い結果となりましたが (p = 0.0056) (図 2A)、6M では有意差はありませんでした (図 2B)。さらに、重回帰分析を行ったところ、2M では眼軸長のみが HFC 値と有意に関連していました (p = 0.0030) が、6M では有意な関係は見られませんでした (p = 0.2163)。

表 1 高値 HFC の割合と年齢の関係

M: month

年齢 (歳)	人数	2M (眼数と割合)	6M (眼数と割合)
~49	14	7 (50%)	6 (43%)
50~59	50	16 (32%)	20 (40%)
60~69	272	101 (37%)	90 (33%)
70~79	600	186 (31%)	204 (34%)
80~	224	76 (34%)	85 (38%)
p-value	-	0.35	0.54

図 2 高値 HFC の割合と眼軸長の関係

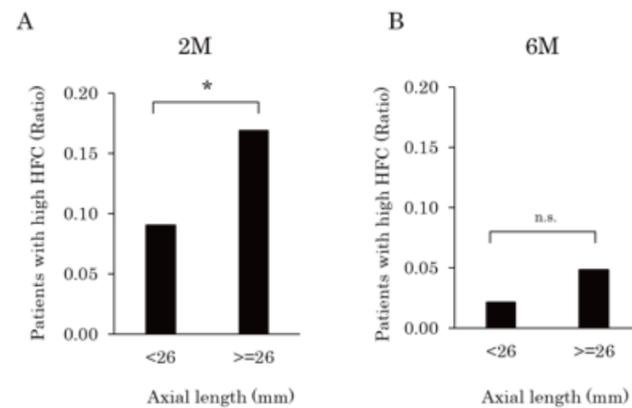


図 2:  
A: 2M の高値 HFC の割合と眼軸長 26mm 未満と 26mm 以上の関係  
B: 6M の高値 HFC の割合と眼軸長 26mm 未満と 26mm 以上の関係  
高値 HFC の割合は、2M の眼軸長 26mm 以上が有意に高く (p=0.0056)、6M では有意差がなかった。

## 考案

白内障術後の IOL 挿入眼では、調節微動が観察され、調節負荷により HFC は増加し、高値 HFC も存在することが示されました。従来、白内障術後は水晶体の調節作用がなくなるため、調節反応は起こらないと考えられてきましたが、本研究で、白内障術後も、毛様体が動いて IOL の位置や形状を変化させ、焦点を合わせるための調節様変化の存在が示唆されました。

また、年齢、術後の期間に関わらず、IOL 挿入眼では一定の割合で高値 HFC が存在していることが示されました。この結果は、IOL 眼でも調節痙攣が生じている可能性を示唆し、白内障術後に眼精疲労を自覚する患者を反映しているのかもしれませんが、今後、高値 HFC と症状との関係を検討していく必要があります。

長眼軸眼では、術後 2M で高値 HFC の割合が高くなりました。理由として、強度近視患者の場合、白内障手術で近視の程度が軽減され、術前後の屈折変化が大きいために、片側手術後に不同視の状態で見物をする期間があり、毛様体筋への負荷が増して HFC が増加する可能性が考えられました。また、術後 6M では高値 HFC の割合に眼軸長間で有意差がなくなったことから、長眼軸眼では何らかの適応システムが働くことが示唆されました。

本研究では、白内障術後の IOL 挿入眼でも調節負荷により調節微動が増加することが初めて示されました。また、長眼軸眼で、高値 HFC の割合が高いことが初めて明らかになり、強度近視患者が白内障手術後に眼精疲労を訴える場合、調節痙攣に注意する必要があることが示されました。



## ICL (有水晶体後房レンズ)

### Implantable Collamer Lens

当院は2014年より、屈折矯正手術である有水晶体後房レンズICL (Implantable Collamer Lens) 手術を行っております。ICLは、近視・遠視および乱視矯正を目的にSTAAR surgical社によって1994年に開発された後房型の有水晶体眼内レンズになります。

2003年~2004年に臨床試験が行われ、その良好な臨床成績から2010年に国内において厚生労働省の認可を得た唯一の有水晶体眼内レンズです。

ICLは長方形のレンズで素材はコラマーという重合体でできています。最初のレンズ開発から改良が重ねられ、現在当院で使用しているレンズは最新モデルであるKS-AquaPORT VICM5・VICM5 (乱視用) になります。

このICLはレンズ中央に0.36mmの微小な穴が作成されており、この穴によって従来必要であった虹彩切除が不要となるため、合併症(眼圧上昇、白内障)の軽減が期待されています。中央の穴は通常、見え方には影響しません。LASIKの適応外となるような強度近視症例に対しても良好な裸眼視力を得ることが可能であり、また屈折の戻りも少ないことが報告されています。



## 日本アルコン社

### NGENUITY

### 3D ビジュアルシステム

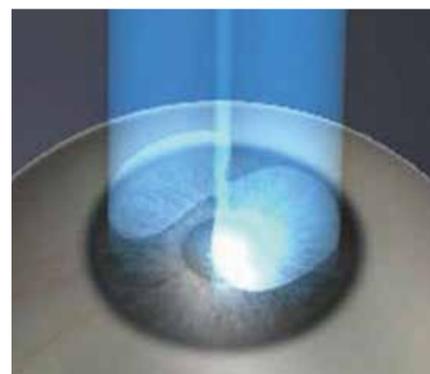
手術用顕微鏡に日本アルコン社の3Dサージカルカメラを取り付けることにより3Dハイビジョンの画像を大型ディスプレイに映し出す事ができます。術者、手術室内のスタッフ全員が、同じ映像を共有することができるため、研修医、スタッフの教育では、より実践に近い指導が行えるようになりました。また、術者はディスプレイを見て手術をするため「頭を上げて」手術をすることが可能となり、術中、無理のない姿勢を取ることが出来ます。



▲リボフラビン点眼



▲紫外線照射



▲角膜形状に応じたパターン照射が可能

## 角膜クロスリンク

### Corneal Cross-linking

Cross-linking(架橋結合)とは、ポリマー同士を連結し、物理的、化学的に性質を変化させる反応です。ヒトに応用した角膜クロスリンクは、リボフラビン(ビタミンB2)を角膜内に浸透させ、特殊な紫外線(365nm)を眼に照射することで角膜内のコラーゲンが架橋形成を起こし、角膜実質の強度を向上させる治療です。角膜クロスリンクにより、円錐角膜や近視矯正手術後の角膜拡張症などの進行を抑えることが可能となりました。

当院はAvedro社のKXL®System(都城・鹿児島)及び同システムの後継機であるMosaic®System(東京)を導入しています。

Mosaic®Systemは角膜形状を考慮し、突出部に応じて紫外線照射を行うことが可能です。そのため、病気の進行を抑えるだけでなく、角膜形状を改善させる効果が期待されています。また、眼の動きを追従するアイトラッキング機能がついており、治療中に患者様の眼が動いても正確な照射をすることが可能です。



KXL®System

Mosaic®System (Avedro社)

## CYCLO G6 (マイクロパルス毛様体光凝固術)

従来の末期緑内障の治療方法として、経強膜毛様体光凝固術 (CW-CPC: Continuous Wave Trans Scleral Cyclophoto coagulation) が行われてきました。CW-CPC は毛様体を熱凝固することで、毛様体組織を破壊し、房水の産生を減少させることを目的とし、良好な眼圧下降効果は得られますが、術後に重度の炎症、前房出血、眼球などの合併症が多いことが知られています。そのため術後合併症の少ない新しい毛様体光凝固術が必要とされていました。そのような中、2017年から、マイクロパルス毛様体光凝固術 (MP-CPC: MicroPulse Cyclophoto coagulation) が日本に導入され、治療が行われるようになりました。これまでのCW-CPCと違い、重篤な術後合併症がないことから、MP-CPCの適応は最末期だけでなく中期の緑内障治療へと広がってきています。

CYCLO G6 (P3 Glaucoma Device, IRIDEX Co. USA) は810nm 赤外線光を照射するレーザー装置で、2つの照射モード (連続照射モードとマイクロパルスモード) を搭載しています。それぞれのモードに対応した専用のプローブを接続することにより、強膜越しに毛様体へのレーザー照射を行い、眼外からのアプローチによる治療 (CW-CPCとMP-CPC) が可能です。MP-CPCは従来の連続波 (Continuous wave: CW) によるレーザー発振をONとOFF に極短時間に制御することによって、毛様体を刺激してぶどう膜強膜流出路による房水流出を促進することを目的としています。結膜を切開せずに行う非観血手術が可能であることから、照射後に将来の濾過手術 (レクトミーやエクスプレス) の妨げとならないことは大きな利点です。また、大半は日帰り治療となる為、患者さんに望まれやすい治療です。これまでは、末期の緑内障を治療対象として経強膜毛様体光凝固術を行ってきましたが、MP-CPCでは重篤な合併症がないことから適応をより早期の緑内障へと広げて加療を行うことが可能となります。



## 感染性眼疾患の分子生物学的解析

当病院には民間病院には珍しく、バイオセーフティレベルBSL1研究室と角膜研究室の2室があります。現在、BSL1にはバイオセーフティキャビネット、核酸自動抽出装置、4チャンネルリアルタイムPCR装置、ゲル撮影装置等が配置され、臨床検体の微生物学的、分子生物学的解析が進行中です。

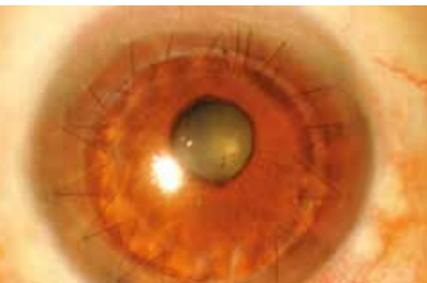
眼科臨床では、感染性角膜炎、感染性結膜炎、ウイルス性ぶどう膜炎、感染性眼内炎など感染性疾患が多く、原因となった病原体を迅速に検出し、効果的な治療を開始することが、視機能温存のために必要とされています。患者様よりいただいた微量な検体を分子生物学的に解析し、病原体を迅速に検出することができます。東京医科歯科大学名誉教授の望月學先生を中心として開発されたウイルス・細菌・真菌に起因する眼内炎に対する迅速解析法 (PCR法) が当研究室でも実施され、実際の症例の治療の参考データとなっています。

発症機序が解明されていない眼科疾患に罹患された患者様が日常診療において来院されることは多く、発症機序を解析・解明することは、治療ならびに予防に重要な情報となります。このような解析を行うためには、疾患を確実に診断し、適切に解析することが非常に大切です。当院では院内倫理委員会において臨床研究が慎重に審査され、すべての臨床研究は患者様からの同意のもとに、臨床と研究の場の空間的・時間的距離を短縮し、これまでできなかった新しい研究を実施することが可能となりつつあります。

## IPL Intense Pulsed Light

IPL (intense pulsed light) は、照射した光が色素に吸収されるときに発生する熱で組織を選択的に破壊します (selective photothermolysis)。眼科領域では MGD (meibomian gland dysfunction) に対する治療として利用されています。IPL は、selective photothermolysis により①拡張血管を凝固させて炎症を軽減する②生じた熱エネルギーにより粘性の高いマイバムを融解し閉塞したマイボーム腺の導管を拡張させることで、MGD に対する治療効果を発現させます。

当院では 2021 年より Lumenis©社の M22TM IPL (上図) を導入し、MGD に対する IPL を開始しました。両側のこめかみから頬部、鼻に13~15ヶ所、一度の治療で各2回ずつ IPL を照射します (下図)。3~4週間毎に行う4回の治療で1セットとなり、概ね4回 (1セット) 以上行うことで症状の改善がえられます。また、治療後にマイバムを圧出することで治療効果が高まるとされており、症状や所見に応じて併用を行います。



▲全層角膜移植術後



▲角膜内皮移植術後

## 移植手術

当院では、国内提供角膜のみならず、海外提供角膜による角膜移植手術を行っております。海外提供角膜の場合、移植希望の患者様を長くお待たせすることも無く、当院での移植希望登録の後、約2~3ヶ月以内に角膜移植手術が受けられます。疾患に応じて、以下のように多様な手術術式を行っております。

### 全層角膜移植術

角膜全層を取り換える術式です。病変が角膜全層に及ぶ疾患も治療が可能です。

### 角膜パーツ移植術 (角膜内皮移植術・深層層状角膜移植術)

疾患により障害されている部分だけを移植する術式で、合併症の少ない方法です。角膜内皮細胞が障害されている疾患に対しては角膜内皮移植術、角膜実質のみ障害されている疾患には深層層状角膜移植術を行っており、良好な成績が得られています。

### 羊膜移植術

角膜穿孔など緊急を要する疾患に対して、保存羊膜による移植手術を行っております。また、再発翼状片、アルカリ外傷など重篤な疾患に対して、角膜輪部移植を併用した前眼部再建手術も行っております。

2023年度 手術実績 (1月1日から12月31日まで)	全層角膜 移植	角膜内皮 移植	深層層状 角膜移植	強角膜 移植	羊膜・輪部 移植	計
	7件	9件	4件	0件	3件	23件

## 日帰り手術

宮田眼科病院・宮田眼科 鹿児島・宮田眼科 東京にて、日帰り手術を行っております。

- ◆ 白内障
- ◆ 緑内障
- ◆ 硝子体手術(宮田眼科病院、宮田眼科 東京)
- ◆ 外眼部手術
- ◆ 屈折矯正手術(ICL)



▲日帰り手術  
患者様専用安静室



▲BSL1 研究室



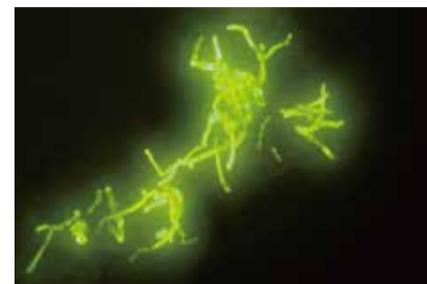
▲P2 研究室



▲角膜研究室



▲フィブロネクチン生成装置



▲蛍光顕微鏡で観察された真菌

## 研究室・角膜センター

1996年に当センターを設置しました。バイオセーフティレベルBSL1と角膜研究室の2室より構成されています。

### BSL1 研究室

初期は病理・組織学的研究を中心に研究を開始し、2003年からは透過型ならびに走査型電子顕微鏡を導入し、マクロからミクロまでの研究が可能になりました。さらに、2015年に安全キャビネットならびにリアルタイムPCR装置(BioRadCFX96)を導入し、臨床検体のウイルス感染の分子生物学的解析が開始され、迅速診断もできるようになりました。アガロースゲル電気泳動、SDS-PAGEの解析も臨床検体の処理も行っており、眼科疾患の病態を解明するための遺伝子レベル・蛋白レベルの研究も進行中です。

### 角膜研究室

安全キャビネットを設置し、それぞれを角膜移植術のグラフト調整に使用しています。CO<sub>2</sub>インキュベーター、-150℃と-80℃の冷凍庫、倒立型顕微鏡、角膜内皮細胞測定装置、オートクレーブを備えています。

### 角膜センター

角膜センターでは、バイオセーフティキャビネット内での無菌操作が可能で、さらに緊急の際にも角膜移植術を行えるよう、国内の提供角膜のみならず、米国からの海外提供ヒト角膜の管理を行っております。また、移植片の術前の角膜内皮細胞のチェックも行っています。

## フィブロネクチン・自己血由来点眼液 (血清点眼等) の調製

角膜疾患の治療に有効とされているフィブロネクチン・血清点眼液を患者様本人の血液から清潔操作下で調製しています。

## 蛍光顕微鏡検査

角膜真菌症やヘルペス性角膜炎の検査に蛍光顕微鏡を用い、正確かつ迅速な診断を行っています。

# 各委員会・各会議の紹介

## ICT委員会 Infection Control Team



- 目的** ◆感染制御の専門チームとして、感染対策の実践・向上のための活動を行う
- 活動内容**
- 感染予防対策の作成** ◆感染対策マニュアル作成・改訂  
◆特定の感染症に対する対策プロトコルの作成・改訂
- 実態調査と報告** ◆感染症サーベイランス…多剤耐性菌が出現した場合は速やかに報告  
◆抗菌薬使用調査…特に広域スペクトル抗菌薬の適正使用の提言を行う
- 職員教育** ◆特定の感染症が疑われる場合に適切な隔離予防策を指導  
◆標準予防策や手洗いなどの職員教育
- 実践・指導** ◆年6回以上、感染管理加算 I 取得施設との合同カンファレンスをオブザーバーとして参加  
◆ラウンドの実施による実態確認  
◆毎月1回感染対策の実態把握と問題点への提言カンファレンス実施

## 院内感染予防対策委員会

- 目的** ◆院内感染防止、リスクを効果的に低減し二次感染を起こさない  
◆医療者の健康と安全の確保  
◆感染管理の改善や教育
- 目標** ◆感染対策への知識を深める  
◆院内感染防止マニュアルを生かし活動していく
- 活動内容** ◆マニュアルを整備し（感染リスクをスパイラル診断）、必要に応じて見直しを行う  
◆院内感染対策に向けて体系の構築、二次発症の早期発見と予防に努める  
◆院内環境の整備  
◆職員への教育と啓発活動

## 医療安全管理委員会

- 目的** ◆医療事故を防止し、安全かつ適切な医療の提供体制を確立
- 活動内容** ◆全職員を対象とした院内研修の実施  
◆院外研修会への参加  
◆院内でのアクシデント・インシデントの検討と対策  
◆医薬品及び医療機器に係る安全管理のための体制を確保  
◆患者様・ご家族様からの相談と対応

## 褥瘡委員会

- 目的** ◆院内の褥瘡対策を討議・検討し、その効率的な推進を図る。

## 教育委員会

- 目的** ◆看護職員及び医療スタッフが主体となり、専門職としての知識や技術向上・職員の育成、各部署でテーマを決めた院内研修報告を行う  
◆個々のスタッフが日々の業務の中で問題意識を持つことや研修成果を共有し、患者様の視点に立った医療に努める
- 活動内容** ◆委員会（毎月実施）  
◆救急法講義（年2回実施）  
◆学会発表（年2、3回実施）  
◆部署別の院内研修計画及び研修報告会  
◆医師による講義  
◆新人教育  
◆院外研修参加後の院内研修計画および報告会

## 衛生委員会

- 目的** ◆労働者の健康障害の防止や健康の保持促進に関する取り組みなどの重要事項について、調査審議を行う

## クリニカルパス委員会

[各クリニカルパス委員会]  
外眼部/前眼部/白内障/  
緑内障/網膜硝子体/斜視/  
循環動態 等

- 目的** ◆医療に携わるスタッフ全員が、診療・検査・看護・医療行為の標準化を検討し、医療の安全・質を見直し、より良い医療・ケアの提供を行う
- 目標** ◆クリニカルパスの必要性を理解し、標準化を図る  
◆標準化されたクリニカルパスの問題抽出と検討・評価  
◆医療行為内容の変更に伴うクリニカルパスの標準化・検討

## 院内総合電子化委員会

- 目的** ◆院内のリソースを最大限に活用するために、DXを推進していく  
◆DX化に伴い、従来の業務に潜むムダ、ムリ、ムラを徹底的に見直し、業務改善を行う必要がある場合、各部署から選出された委員を中心にBPR※1を行う  
※1 Business Process Re-engineering / 業務の流れを分析し、最適化すること
- 活動内容** ◆2019年9月の電子カルテ稼働後、全体・各部門の最重要課題をピックアップし、順次対応していく  
◆操作性向上のため、機器・ソフトウェアの機能強化等を提案する
- 今後の活動** ◆電子カルテ稼働後のBPRは継続的に行う  
◆蓄積されたデータの二次利用を検討し実施する

## 医療連携委員会

- 目的** ◆患者様により良い医療を受けていただく為に、各医療機関及び関連団体・企業と連携しながら、継続性のある適切な医療提供に努める
- 活動内容** ◆委員会（月1回実施）  
◆紹介元、紹介先医療機関に関するデータ管理  
◆病院の概要や活動に関する年次報告書の発行

# 各委員会・各会議の紹介

## 接遇委員会

- 目的** ◆病院理念・看護理念・看護目標をスタッフへ再確認してもらい、より良い接遇へ改善する
- 活動内容** ◆委員会 (月1回実施)  
◆勉強会 (年に数回、講師を招き実施)  
◆各部署にエチケットリーダーを設け、チェックシートを用い、意識向上の継続を図る

## DPC委員会

- 目的** ◆厚生労働省が実施する「DPC導入の影響評価に係る調査」に準拠したデータを正確に作成し、継続して提出する
- 活動内容** ◆委員会 (年2回開催)  
◆データの作成について、様式1及びHファイル、持参業等のデータ入力において、現時点での問題点を提起し、それぞれの役割分担の明確化や意思疎通を図り、改善の方法と今後の運用のあり方について検討する  
◆厚生労働省の「DPC導入の影響評価に係る調査」で指摘・指導された項目等について改善するための対策を考える

## 適切なコーディングに関する委員会

- 目的** ◆DPCコーディングにおける標準的な診断及び治療方法の周知を徹底し、ICDに基づく適切な疾病分類を行う体制を確立する
- 活動内容** ◆委員会 (年2回開催)  
◆DPC傷病名コーディングテキスト (厚労省) に基づきDPCレセプトの作成や「DPC導入の影響評価に係る調査」の様式1において適切なICD選択に伴う傷病名のコーディングをそれぞれの記載欄に定められている留意事項に沿って作成する  
◆個別に発生する実務的な事例について、適切なDPCコーディングが行われるよう検討し、対応する

## 広報委員会

- 目的** ◆患者様を含む地域住民や関係者とのコミュニケーションやリレーションを強化すること  
◆ホームページ・広報誌などを利用し、情報発信を行うこと
- 活動内容** ◆委員会 (月1回実施)  
◆ホームページコンテンツを定期的に更新  
◆広報誌の作成

## 倫理審査委員会

- 目的** ◆人を対象とする臨床研究においては、被験者保護や研究の質の確保のために、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に基づき、研究の実施または継続について審査する

## 治験審査委員会

- 目的** ◆治験実施機関が治験を実施する際に厚生労働省に届け出た治験デザインを審査する中立的な組織で、治験の倫理性、安全性、科学的妥当性を審査する

## 責任者会議

- 目的** ◆各部署の責任者や各委員会の代表者が出席し、部署内や委員会の連絡事項を報告する
- 活動内容** ◆定期会議 (月1回実施)

## CS会議 Customer-Support Team

- 目的** ◆患者様の満足度向上のために、医師のスケジュール調整を行い、診療や手術がスムーズに運ぶようにする
- 活動内容** ◆月1回、院長を交えてミーティング  
◆医師の勤務変更が生じたときなど、臨時に各委員を招集し会議を行う

## フロア会議

- 目的** ◆外来業務を円滑にすすめるために意見を出し合い、情報を共有する
- 活動内容** ◆月1回、各部署の責任者を招集し会議を行う

## 企画会議

- 目的** ◆病院全体の活性化や職員のモチベーションの向上に努める
- 活動内容** ◆院内で行われる各種イベントの企画・運営等

## 医局 ミーティング

- 目的** ◆研究や治験を管理し、その情報を医局で共有する
- 活動内容** ◆医師、薬剤師、検査員、看護師、治験スタッフが医局に集合し、進行中の臨床研究並びに治験の進捗状況を報告し、臨床研究においては問題点とその解決法、さらには今後の研究の方向について話し合う  
◆学会ならびに論文発表の予定、進捗状況を確認する  
◆医療ならびに医事に関するスタッフ間の情報を共有する  
◆眼科研修医による症例報告に際し、診断・治療方針を確認・検討する  
◆定期会議 毎週水曜日診療開始前に実施



毎週水曜日の診療開始前に実施

## オーベン会議

- 目的** ◆レジデントの先生方の現状および今後の目標について報告および相談を行う
- 活動内容** ◆臨床研修医の外来診療・手術・研究内容の進捗状況を各オーベンが報告し、課題点を把握し、どのように指導していくかについて検討する  
◆医局の人事・運営方針について話し合う  
◆定期会議 (月1回実施)



月1回火曜日の診療開始前に実施



宮田眼科病院

## 外来

看護師 徳留 千里



昨年入職しました、外来の徳留と申します。以前まで一般事務職をしており、久しぶりの看護業務となります。働きはじめは、右も左も分からないことが多くたくさんご迷惑をかけました。今でも分からないことが多いですが、教えてくださる先生方や先輩方のおかげで働くことができます。先輩方のような、周りの状況を見て行動ができる看護師になるのが今の私の目標です。まだまだ力不足な点もありますが、今後ともご指導のほどよろしくお願い致します。

宮田眼科病院

## 3階病棟

看護師 飯盛 悠美



以前は内科や透析室で勤務していましたが、息子の眼疾患をきっかけに眼科分野を学びたいと思い当院に入職しました。初めて眼科分野に携わり分からないことだらけで戸惑いもあります。先輩方にご指導いただきながら毎日新しい学びを得られているとともに眼科の奥深さを感じ、もっと知識を深めていかなければいけないと痛感しているところです。短期間の入院であっても、患者様は治療や手術に対する不安や恐怖心が大きいため、少しでも安心した入院生活が送れるよう患者様に寄り添った看護を行ってまいりたいと思います。

宮田眼科病院

## 4階病棟

看護師 出水 佑佳



以前は呼吸器内科・未熟児・小児科病棟で勤務していました。未熟児病棟で眼底検査の介助や未熟児網膜症・先天性白内障等の疾患に関わり、眼科に興味を持ったことをきっかけに当院へ入職しました。初めは分からないことばかりで戸惑いや不安もありましたが、先生・先輩方からご指導をいただき、学びを深めています。これまでの知識や技術を活かしながら、眼科についてさらに学びを深めていけるよう努めて参ります。



宮田眼科病院

## 医事課

医療事務 仁田 詩月



今年、専門学校を卒業し当院に入職いたしました、医事課の仁田と申します。まだまだ分からないことも多く不安もありますが、先輩方の丁寧なご指導により少しずつですが出来ることが増え、とても充実した日々を過ごしています。患者様と関わることも多いので患者様に安心して来院していただくよう焦らず丁寧に対応していきます。また、これからたくさんの眼科の知識、患者様への対応力を身につけもっと色々なことができるようになりたいです。精一杯頑張りますのでどうぞ宜しくお願い致します。

宮田眼科 鹿児島

## 検査部

視能訓練士 緒方 里菜



宮田眼科 鹿児島へ入職し、また視能訓練士として働き始めて約1年が経ちました。私は専門学生の時に当院にて実習をさせていただき、先輩方の検査スキルや専門性の高い診療に感銘を受け、入職を決意しました。この1年を振り返りますと検査手技や患者様への接し方など覚えなければならないことが多く、自分の能力に不安を抱えることも多くありました。今後も引き続き先輩方にご指導いただきながら、少しでも自信を持てるよう自己研鑽に励みたいと思います。

宮田眼科 東京

## 検査課

視能訓練士 疋田 隼也



宮田眼科 東京の開院時に入職致しました、視能訓練士の疋田と申します。開院直後は患者様が少なく経験を積むことが困難だったので、都城と鹿児島で研修の機会を頂きました。先輩方から丁寧に教えて頂いたので、戻ってからは自信をもって検査ができました。今年は新人が入り、私が経験し学んだことをどう伝えるかが、今の課題だと思います。入職2年目の未熟な私ですが、宮田眼科が誇る質の高い医療を提供できるように努力していきます。どうぞよろしくお願い致します。

## 2023年 クリニカルクラークシップ



宮崎大学  
田中 智大

今回、宮田眼科病院で2週間の実習をさせていただきました。

大学病院での実習ではあまり経験することができなかった、さまざまな症例を見せていただいたことや、病棟や手術室での先生方の手厚いご指導はとても勉強になりました。特に初めて見学することができた硝子体手術は、外科系の診療科を志望する私にとって大変興味深く印象に残りました。2週間という短い期間ではありましたが、とても濃密な実習をすることができました。その他にも、ご用立ていただいた食事、宿泊施設などが素晴らしく、充実した実習環境で勉学に集中することができました。今後の自分の進路を熟考する機会ともなりました。

宮田先生をはじめとした先生方、色々な質問に答えてくださった外山先生、病院スタッフの皆様、2週間本当にありがとうございました。この実習体験を今後活かして勉学に精進していきます。

## 2023年 クリニカルクラークシップ



宮崎大学  
千葉 晃弘

まずは、実習を受け入れて下さり、ありがとうございました。

4年時の実習では寒波と重なり、雪によって患者さんが少なかったのですが、今回の実習では、本来の診療の様子をうかがうことができ、患者さんの多さに大変驚愕しました。都城だけでなく、周辺地域の眼科を一手に担っているとお聞きしていましたが、その実態、まさしく地域を支え、地域の方々に信頼される病院というものを垣間見ることが出来たと思います。

外来診療においては、これまでに九州外で働かれていた先生方から、よく診る疾患の違いについて教えていただきました。日本国内においても、好発年齢やメジャーな疾患が違うということを知ることができ、大変勉強になりました。また宮田先生の、環境的要因、遺伝的要因に目を向けた地域医療の在り方の大切さを実感できたと思います。

手術では、豚眼を用いた白内障手術の練習をさせていただきました。前囊の円形切開に大変時間がかかり、先生方の施術の上手さとスピードの凄さを実感することができました。この他、普段大学病院では出会えない疾患の手術などを見学することができ、見分を広げることができました。

今回の実習で、大学での実習では得難い多くの経験を積ませていただきました。また先生方は皆さん優しく接して下さり、手術の解説など大変お世話になりました。今後ご縁がありましたら、よろしくお願い致します。

2週間、本当にありがとうございました。

## 2023年 専攻医実習



東京大学  
松島 康太

5日間と短い期間でしたが、宮田眼科で研修をさせていただき誠にありがとうございました。宮田眼科では大学病院を上回る規模の外来患者数・手術件数を大学病院よりはるかに少ないマンパワーで診療しており、それを可能にするためのソフト・ハード両面での整備・効率化が徹底されていることに非常に感銘を受けました。

またどの先生方も研究テーマを持ちアカデミックな姿勢で診療に臨まれているとともに、膨大な経験と修練に支えられた鮮やかな手術を行われており、眼科医としてのロールモデルを拝見できたと思っております。

今後ともご指導のほどよろしくお願い致します。

## 2023年 専攻医実習



東京大学  
凶所 孝紘

宮田院長をはじめとする先生方、スタッフの方に温かく迎えていただき、充実した研修を送ることができました。

外来・検査と手術室を中心に研修させていただきましたが、充実した設備と効率的なシステムの下で、地方都市にありながら大学病院と変わらない最先端の医療が提供されていることに感銘を受けました。

また、これから発表予定の研究成果も紹介いただき、「日常診療で得た気づきを患者さんに還元する」という視点のもとに、多くの臨床的知見が集積されていることに目から鱗が落ちるような気持ちでした。

病院食が美味しかったり、何よりスタッフの方々がとても温かかったりと、眼科臨床にとどまらない宮田眼科病院の魅力に触れることができました。1週間本当にありがとうございました。

都 都城 鹿 鹿児島 東 東京

治療機器

◆ コンステレーション・ビジョンシステム

[対象] 白内障・網膜硝子体疾患



都 東

◆ CENTURION

[対象] 白内障・網膜硝子体疾患



都 鹿 東

◆ NGENUITY®3D ビジュアルシステム

[対象] 手術全般・教育ビデオ



都

◆ 各種レーザー機器

- ◆ダイレーザー：眼底の光凝固術など
- ◆SLT：眼圧を下げる
- ◆ヤグレーザー：後発白内障の後嚢切開術



都 鹿

◆ エキシマレーザー

[対象] 近視矯正・遠視矯正・乱視矯正



都

◆ 角膜クロスリンク KXL®System

[対象] 円錐角膜



都 鹿

◆ 角膜クロスリンク Mosaic®System

[対象] 円錐角膜・屈折異常眼



東

◆ イエロースキャンレーザー光凝固装置

[対象] 眼底の光凝固など



東

◆ PDT (photodynamic therapy)

[対象] 加齢黄斑変性



都

◆ CYCLO G6 (Glaucoma Laser System)

[対象] 緑内障



都

検査機器

※各種検査機器他による検査データをご要望に応じてご提供いたします。

都 都城 鹿 鹿児島 東 東京



◆ アコモレフ

[検査部位] 調節・屈折  
[疾患] 眼精疲労・調節障害

都 鹿



◆ 皮膚ERG (左)  
◆ 多局所ERG (右)

[検査部位] 網膜  
[疾患] 網膜疾患

都 鹿 東



◆ アイモ vifa

[検査部位] コントラスト感度・視野  
[疾患] 白内障・緑内障

都 鹿 東



◆ ウェーブフロントアナライザ KR-1W

[検査部位] 眼光学系  
[疾患] 円錐角膜・白内障・不正乱視・屈折矯正手術

都



◆ VERION Vision Planner

[検査部位] 角膜  
[疾患] 白内障

都 鹿



◆ HRTII - 角膜モジュール (Confocalemicroscopy)

[検査部位] 角膜  
[疾患] 角膜疾患

都



◆ 前眼部OCT CASIA2

[検査部位] 前眼部および角膜の断面  
[疾患] 角膜疾患・隅角性緑内障等の前眼部疾患全般

都 鹿 東



◆ パラミック オフサルモスコープ カリフォルニア

[検査部位] 網膜・脈絡膜  
[疾患] 眼底疾患全般

都



◆ ハイデルベルグスペクトラリス OCT-Angiography

[検査部位] 網膜・脈絡膜・前眼部  
[疾患] 眼底疾患全般・緑内障・前眼部疾患

都 鹿



◆ ハイデルベルグスペクトラリスHRA

[検査部位] 網膜・脈絡膜  
[疾患] 眼底疾患全般

都



◆ DRI OCT Triton Pro (広角画像・SMART DENOISE画像)

[検査部位] 網膜  
[疾患] 緑内障・白内障・黄斑疾患全般

都



◆ 3次元眼底像撮影装置 DRI OCT Triton Plus

[検査部位] 網膜・眼底(Color,FA,ALL Flu)   
[疾患] 眼底疾患全般

都



◆ 超広角走査型レーザー検眼鏡 Daytona Next

[検査部位] 網膜・脈絡膜  
[疾患] 眼底疾患全般

鹿 東



◆ 3次元眼底像撮影装置 DRI OCT Triton

[検査部位] 網膜・眼底  
[疾患] 眼底疾患全般

鹿 東



◆ 頸動脈エコー

[検査部位] 頸動脈  
[疾患] 網膜静脈閉塞症・網膜動脈閉塞症

都

宮田眼科病院

2023年 患者数

手術総数	8,330 件
入院患者延べ人数	21,403 人
外来新患人数	3,531 人
外来患者延べ人数	105,774 人
1日の平均来院患者数	393 人

※土曜日 0.5 日換算

治験実績 (2023年12月末現在)

[対象疾患]	[区分]	[相]	[依頼企業]
白内障	医療機器	—	W社
ファリシマブ (新生血管を伴う 網膜色素線条)	医薬品	第Ⅲ相	T社

※過去 2 年間の実績並びに現在進行中の治験実績です。  
※1989 年以降、113 件の治験実績があります。

現在実施中の治験については患者様の募集も行っております。  
該当される患者様がおられましたら、ご紹介いただけますと幸いです。



手術実績

[手術内訳]	[症例数]
白内障手術	3,041 件
網膜硝子体手術	636 件
緑内障手術	313 件
角膜移植術	23 件
二次移植術	0 件
屈折矯正手術 H-ICL	66 件
〃 LASIK	4 件
PTK	14 件
クロスリンキング	20 件
鼻涙管手術	63 件
眼瞼・形成手術	243 件
斜視手術	173 件
翼状片手術	163 件
硝子体注射	2,170 件
ボトックス注射	102 件
レーザー手術	1,206 件
その他の手術	93 件

角膜移植術内訳

- 全層角膜移植 ..... 7 件
- 角膜内皮移植 ..... 9 件
- 深層層状角膜移植 ..... 4 件
- 強角膜移植 ..... 0 件
- 人工角膜移植 ..... 0 件
- 羊膜・輪部移植 ..... 3 件

宮田眼科 鹿児島

2023年 患者数

手術総数	1,642 件
外来新患人数	2,568 人
外来患者延べ人数	45,296 人
1日の平均来院患者数	174 人

※土曜日 0.5 日換算

治療実績

オルソケラトロジー	19 件
-----------	------

手術実績 [日帰り手術のみ]

[手術内訳]	[症例数]
白内障手術	532 件
緑内障手術	23 件
屈折矯正 (H-ICL)	130 件
クロスリンキング	2 件
眼瞼・形成手術	55 件
翼状片手術	43 件
硝子体注射	436 件
ボトックス注射	57 件
レーザー手術	339 件
その他の手術	25 件

宮田眼科 東京

2023年 患者数

手術総数	230 件
外来新患人数	1,141 人
外来患者延べ人数	3,140 人
1日の平均来院患者数	17 人

手術実績 [日帰り手術のみ]

[手術内訳]	[症例数]
白内障手術	111 件
緑内障手術	42 件
屈折矯正 (H-ICL)	8 件
硝子体注射	57 件
レーザー手術	11 件

## 2022年

題名	雑誌名	巻・号	ページ
Challenges in the diagnosis and management of vitreoretinal lymphoma-Clinical and basic approaches.	Prog Retin Eye Res	90 Sept	101053
Ocular surface flora and prophylactic antibiotics for cataract surgery in the age of antimicrobial resistance.	Jpn J Ophthalmol	66(2)	111-118
Analysis of treatment protocols using azithromycin eye drops for bacterial blepharitis: Second report-bacteriological investigation.	Jpn J Ophthalmol	66(6)	579-589
Severe ocular complications associated with wearing of contact lens in Japan.	Eye Contact Lens	48(2)	63-68
Type of residual astigmatism and uncorrected visual acuity in pseudophakic eyes.	Sci Rep	12	1225
Long-term outcomes of cataract surgery with toric intraocular lens implantation by the type of preoperative astigmatism.	Sci Rep	12	8457
Effect of small incision sutureless cataract surgery on the natural course of astigmatism in 10 to 20 years.	J Cataract Refract Surg	48(10)	1121-1125
Influence of implantation of diffractive trifocal intraocular lenses on standard automated perimetry.	BMC Ophthalmol	22	151
A case of adult-onset Wolfram syndrome with compound heterozygous mutations of the WFS1 gene.	Am J Ophthalmol Case Report	25	101315
Newly or switching effect of EP2 agonist on intraocular pressure in Japanese patients with open-angle glaucoma.	Jpn J Ophthalmol	66(5)	434-439
Morgagnian cataract.	JMA J	5(3)	379-380
Central corneal opacity 27 years after radial keratotomy.	Ophthalmology	129(8)	889
Pseudomembranous conjunctivitis following exposure to Arisaema ringens sap: A case report.	Case Rep Ophthalmol	13(2)	350-354
Corneal toxicity after stinging by a sea anemone, Anthopleura uchidai: A case report with confirmation by in vitro study.	Cornea	41(8)	1035-1037
Long-term outcome in corneal endothelitis with molecular detection of herpes simplex virus 1 and human herpes virus 6: A case report.	BMC Ophthalmol	22	48
Severe fishhook-related ocular injury: A case series.	Trauma Case Rep	37	100574
ぶどう膜炎診療における半世紀の歴史と変遷.	あたらしい眼科	38(12)	1447-1453
IOL 挿入眼のデンストメトリ解析.	IOL&RS	36(4)	567-573
トーリック眼内レンズの長期成績—術前乱視タイプ別の解析.	日本眼科学会雑誌	126(9)	776
含水率を高くした疎水性アクリル眼内レンズ挿入後 1 年における嚢内安定性の評価.	あたらしい眼科	39(7)	988-992
細菌性眼瞼炎に対するアジスロマイシン点眼液を用いた治療プロトコルの検討—第一報：臨床経過の検討.	あたらしい眼科	39(7)	999-1004
正常眼圧緑内障において線維柱帯切除術が散瞳後の眼圧に与える影響.	眼科	64(11)	1091-1098
間欠性外斜視に対する 10 プリズム組み込み眼鏡の効果.	眼科臨床紀要	15(1)	5 - 9
Kane formula の予測精度の検討.	IOL&RS	36(2)	251-257
角膜混濁除去と IOL 度数計算.	IOL&RS	36(4)	515-520
翼状片—今、考えるべきこと.	臨床眼科	76(13)	1631-1638
水晶体の解剖と疾患.	眼科ケア	25(1)	32-40
角膜拡張症に対するカスタム角膜クロスリンク.	眼科手術	35(4)	587-592
ASCRS サイトの計算式：post refractive surgery の IOL 度数計算& トーリック IOL 関連.	IOL&RS	36(1)	11-18
強度近視眼の IOL 度数計算.	IOL&RS	36(2)	191-195
コンサルテーションコーナー エキスパートに聞く.	IOL&RS	36(2)	308-312
AI を用いた IOL 度数計算.	日本の眼科	93(2)	196-197
シリコーン製人工虹彩.	あたらしい眼科	39(1)	75-76
角結膜疾患の病診連携.	あたらしい眼科	臨時増刊号	180-183
眼内レンズ度数計算の注意点とどの症例にトーリック眼内レンズを選ぶか教えてください.	あたらしい眼科	臨時増刊号	201-207
ブラチドリリング式角膜形状解析画像の深層学習による円錐角膜の病期別診断能.	日本眼科学会雑誌	126(3)	395-396
前眼部光干渉断層計画像および深層学習を用いた円錐角膜の進行予測能の検証.	日本眼科学会雑誌	126(4)	482
国際眼サルコイドーシスワークショップによる眼サルコイドーシス治療に関する提言.	日本眼科学会雑誌	126(5)	542
白内障手術後の残余斜視タイプ(軸方向)と裸眼視力の関係.	日本眼科学会雑誌	126(6)	606

## 2023年

題名	雑誌名	巻・号	ページ
A COVID-19 perspective of Vogt-Koyanagi-Harada disease.	Indian J Ophthalmol	71(6)	2587-2591
Laboratory investigations in infectious uveitis.	Ocul Immunol Inflamm	31(7)	1405-1415
Human T-cell leukemia virus type 1 (HTLV-1)-induced uveitis.	Ocul Immunol Inflamm	31(7)	1416-1424
Long-term effect of using hard contact lenses on corneal endothelial cell density and morphology in ophthalmologically healthy individuals in Japan.	Sci Rep	13	7649
Early intervention for perioperative hypertension in cataract surgery.	Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol	261(1)	147-154
Visual function in eyes with diffractive extended depth-of-focus and monofocal intraocular lenses: 2-year comparison.	Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol	261(9)	2567-2573
Changes in the preoperative ocular surface flora with an increase in patient age: A surveillance analysis of bacterial diversity and resistance to fluoroquinolone.	Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol	261(11)	3231-3239
Prevalence of accommodative microfluctuations in eyes after cataract surgery.	J Clin Med	12(15)	5135
Clinical performance of a hydrophobic acrylic diffractive trifocal intraocular lens in a Japanese population.	Ophthalmol Ther	12(2)	867-878
Image-guided system versus axis registration technique for toric intraocular lens alignment in cataract surgery.	J Clin Exp Ophthalmol	14(1)	1000940
Corneal crystalline deposits in a patient with multiple myeloma.	N Engl J Med	389(1)	71
Blepharokeratoconjunctivitis presumably caused by Paederus fuscipes, a beetle: A case report.	Case Rep Ophthalmol	14(1)	555-561
Endothelial dysfunction of the cornea after exposure to sprayed venom from hornets.	Cutan Ocul Toxicol	42(4)	185-189
Epikeratophakia for keratoconus: A case report with 30-years of follow-up.	Case Rep Ophthalmol Med	2023	9919057
緑内障点眼薬 3 種類 2 製剤から 4 種類 2 製剤への配合点眼薬切替—多施設共同観察試験.	あたらしい眼科	40(11)	1476-1480
再改良された軟性アクリル眼内レンズにおける術後表面散乱.	臨床眼科	77(3)	368-372
白内障手術後の眼精疲労に対する 0.05% シクロペントラート塩酸塩点眼の治療効果.	臨床眼科	77(9)	1203-1208
翼状片と白内障手術.	IOL&RS	37(1)	27-32
虹彩欠損に対する人工虹彩.	IOL&RS	37(2)	197-202
わが国におけるウイルス性前部ぶどう膜炎の特徴について.	日本の眼科	94(7)	868-869
眼内レンズ度数計算のアップデート.	日本の眼科	94(10)	1330-1335
鉄片異物.	臨床眼科	77(11)	92-95
グリスニングと SSNG.	眼科プラクティス	12	158-161
人工虹彩.	眼科プラクティス	12	136-137
白内障手術のインフォームド・コンセント.	あたらしい眼科	40(6)	713-714
臨床研究のインフォームド・コンセント.	あたらしい眼科	40(6)	779-783
屈折矯正手術後の感染症.	あたらしい眼科	40(9)	1199-1200
Clareon TORIC.	眼科手術	36(2)	257-260
手術室・拝見④	眼科手術	36(4)	598-599
ブドウ球菌角膜炎 - 病原体と標的治療 -.	OCULISTA	119	24-29
難症例への対処②硬い核.	眼科グラフィック	1(12)	13-17
特集にあたって.	IOL&RS	37(2)	177-177
Double C-loop を有する疎水性アクリル製 3 焦点眼内レンズの臨床成績.	日本眼科学会雑誌	127(9)	812-812
ハードコンタクトレンズ長期装用における角膜内皮細胞の密度と形態.	日本眼科学会雑誌	127(10)	927-927

Impact Factor : Total 1066.036

(1997年4月~2024年8月現在)

# 実績（院内講演会）

## 霧島眼科研鑽会

※講演者の所属・役職は当時のものです。

回	開催日	講演者	所属	役職	演題名
	1998年 9月 19日	白土 城照	東京医科大学眼科	助 教授	視神経乳頭の見方
1	1999年 1月 23日	高村 悦子	東京女子医科大学	助 教授	アレルギー性結膜炎の診断と治療
2	3月 27日	戸張 幾生	東邦大学医学部	教 授	網膜静脈閉塞症のレーザー治療
3	5月 15日	竹内 忍	東邦大学医学部	教 授	網膜裂孔と予防手術について
4	10月 2日	望月 學	東京医科歯科大学	教 授	ぶどう膜炎診断のキーワード
5	2000年 3月 18日	西田 輝夫	山口大学医学部眼科	教 授	角膜上皮障害の管理について
6	7月 22日	濱野 孝	ハマノ眼科	院 長	ドライアイの治療について
7	2001年 1月 20日	白土 城照	東京医科大学眼科	教 授	正常眼圧緑内障
8	10月 20日	大鹿 哲郎	東京大学眼科	助 教授	分かりやすい眼光学の話
		宮田 和典	宮田眼科病院	院 長	近視矯正手術の効果と合併症
		中原 正彰	宮田眼科病院	副 院長	網膜剥離手術予後不良例の検討
9	2002年 4月 20日	山口 晶彦	松山赤十字病院眼科	副 部長	ドライアイの診断
		横井 則彦	京都府立医科大学眼科	助 教授	結膜弛緩症とドライアイ
		島崎 潤	東京歯科大学市川総合病院眼科	助 教授	重症オキュラーサーフェス疾患の治療
10	11月 30日	岡本 茂樹	幸塚眼科	院 長	角膜移植 最近の動向
		前田 直之	大阪大学大学院感覚機能形成学分野	助 教授	波面センサーの臨床応用
		ヒッセン宮島 弘子	東京歯科大学水道橋病院眼科	助 教授	LASIKの実際
11	2003年 8月 23日	中村 泰久	聖隷浜松病院眼形成眼高外科	部 長	眼形成眼高外科のいくつかの症例
12	2004年 4月 3日	浅利 誠志	大阪大学医学部付属病院感染制御部	副 部長	世界標準の予防策と耐性菌最前線
		井上 幸次	鳥取大学医学部視覚病態学	教 授	感染性結膜炎・角膜炎の診断と治療
		大橋 裕一	愛媛大学医学部眼科	教 授	白内障術後眼内炎Q&A
13	2005年 3月 5日	栗橋 克昭	栗橋眼科	院 長	涙道手術とドライアイ
14	2006年 9月 30日	新家 眞	東京大学大学院医学系研究科眼科学	教 授	閉塞隅角緑内障について
15	2007年 9月 1日	永本 敏之	杏林アイセンター	准 教授	成熟・過熟・膨潤白内障の手術
		宮田 和典	宮田眼科病院	院 長	角膜内皮障害眼への白内障手術
		常岡 寛	東京慈恵会医科大学眼科学講座	教 授	小瞳孔眼
16	2008年 3月 8日	大木 孝太郎	大木眼科	院 長	新しい多焦点眼内レンズの臨床
		垣淵 正男	兵庫医科大学形成外科学講座	教 授	形成外科における眼瞼および眼窩疾患に対する治療
17	10月 4日	加藤 聡	東京大学医学部眼科	准 教授	糖尿病網膜症に対する網膜光凝固のコツと落とし穴
		山本 修一	千葉大学大学院医学研究科眼科学	教 授	ERG/パワートレーニング
18	2009年 3月 14日	福山 誠	ふくやま眼科	院 長	眼軸長測定と眼内レンズ度数決定
		徳田 芳浩	井上眼科病院	副 院長	白内障IOL手術の合併症対策
19	2010年 3月 6日	内尾 英一	福岡大学医学部眼科学教室	教 授	眼アレルギーの治療と管理 ～免疫抑制点眼薬導入後の新しいトレンドを中心に～
		後藤 浩	東京医科大学眼科学教室	教 授	眼瞼腫瘍の診断と治療の実際
20	2011年 5月 21日	天野 史郎	東京大学大学院医学系研究科 外科学専攻感覚運動機能医学講座	教 授	角膜手術の新しいトレンド
		西田 幸二	大阪大学大学院医学系研究科 脳神経感覚器外科学(眼科学)	教 授	病態から考える角膜疾患の診療
21	2012年 3月 17日	清水 公也	北里大学医学部眼科学教室	教 授	"見る"こととmonovisionと多焦点レンズを考える
		神谷 和孝	北里大学医学部眼科学教室	准 教授	乱視矯正に関する最近の話題
22	12月 15日	中馬 秀樹	宮崎大学医学部附属病院	病院教授	外転神経麻痺のみかた
		佐藤 美保	浜松医科大学医学部眼科教室	病院教授	斜視はどこまでなおるのか
23	2013年10月 19日	相原 一	四谷しらと眼科	副 院長	新しい緑内障濾過手術の可能性
		桑山 泰明	福島アイクリニック	院 長	緑内障の生涯治療
24	2014年11月 22日	石田 晋	北海道大学大学院医学研究科眼科分野	教 授	黄斑浮腫に対するVEGF療法
		横井 則彦	京都府立医科大学大学院医学研究科視覚機能再生外科学	准 教授	涙液破壊を診るドライアイ診療のグレードアップ
25	2015年 2月 21日	浅利 誠志	大阪大学大学院医学研究科	招聘教授	日米の誤ったMRSA治療法を一刀両断 ～眼科での治せる治療法とは？～
		大橋 裕一	愛媛大学眼科学教授	教 授	研究のマイブームを作ろう!
26	10月 17日	野田 航介	北海道大学大学院医学研究科眼科学分野	准 教授	糖尿病黄斑浮腫の病態と治療選択
		佐々木 洋	金沢医科大学眼科学講座	主任教授	最良のQOVを目指した白内障手術適応と眼内レンズの選択
27	2016年 2月 27日	園田 康平	九州大学大学院医学研究科眼科学	教 授	眼炎症疾患:これからのマネージメント
		山田 昌和	杏林大学アイセンター	教 授	コンタクトレンズとドライアイ
28	2017年 2月 25日	木内 良明	広島大学大学院視覚病態学	教 授	緑内障クリニカルエッセション
		庄司 信行	北里大学医学部眼科	主任教授	緑内障手術のタイミング
29	2018年 3月 3日	浅利 誠志	大阪大学大学院医学系研究科	招聘教授	薬剤耐性 (AMR:antimicrobial resistance)について
		江口 秀一郎	江口眼科	院 長	外眼病疾患治療のエッセンス
30	2021年 3月 25日 Web会議 (Zoomウェビナー)	子島 良平	宮田眼科病院	副 院長	感染性角膜炎の治療戦略-どう診て、どう治すか-細菌・真菌編
		岡本 史樹	筑波大学医学部眼科学	病院教授	黄斑前膜の視機能と手術適応-こんなERMは手術しましょう-
		相原 一	東京大学医学部眼科学教室	教 授	緑内障薬物治療update-適切な点眼治療を目指して-

## 霧島眼科研鑽会

※講演者の所属・役職は当時のものです。

回	開催日	講演者	所属	役職	演題名
31	2022年 3月 19日	森 洋斎	宮田眼科病院	診療部長	Refractive Cataract Surgery～さらなる高みを目指して～
		加藤 聡	東京大学医学部眼科学教室	准 教授	糖尿病黄斑浮腫に対する新しい試み-間値下レーザーの偏光OCTを用いた評価とナビゲーションレーザーシステムの使用経験-糖尿病網膜症患者のロービジョンケア
		神谷 和孝	北里大学医療衛生学部視覚生理学	教 授	屈折矯正手術アップデート2022
32	2023年 3月 25日	寺田 裕紀子	宮田眼科病院		ところ変われば、時が移ろえば、ぶどう膜炎が変わる ～ぶどう膜炎のマネジメント～
		本庄 恵	東京大学医学部眼科学教室	准 教授	長期化する緑内障治療のなかでの治療選択について
		根岸 一乃	慶應義塾大学医学部眼科学教室	教 授	老視診療再考

## ちかさと霧島PBMセミナー

※講演者の所属・役職は当時のものです。

回	開催日	講演者	所属	役職	演題名
1	2023年 9月 20日	望月 學	宮田眼科 東京	院 長	ぶどう膜炎診療アップデート
		宮田 和典	宮田眼科病院	院 長	白内障診療アップデート
		相原 一	東京大学 眼科	教 授	緑内障診療アップデート
2	12月 20日	北野 滋彦	東京女子医大糖尿病センター	前 教授	糖尿病網膜症のトピックス
		神谷 和孝	北里大学 医療衛生学部視覚生理学	教 授	エビデンスに基づいた屈折矯正手術～ワンランク上のICL手術を目指して～
		岡本 史樹	日本医科大学 眼科	教 授	黄斑前膜の視機能と手術適応
3	2024年 3月 30日	平形 明人	杏林大学 医学部眼科学教室	教 授	見逃しやすい糖尿病網膜症所見
		木下 茂	京都府立医科大学 共同研究講座感覚器未来医療学	教 授	角結膜疾患の診療エッセンス、そして雑談
4	6月 12日	宮井 尊史	東京大学 眼科	准 教授	角膜診療プラスアルファ: ～円錐角膜と上皮再生医療の臨床～
		高瀬 博	宮田眼科 東京、前東京医科歯科大学	前病院教授	実地医家におけるぶどう膜炎診療
		本庄 恵	東京大学 眼科	准 教授	低侵襲緑内障手術のすすめ

## UAC霧島眼科研鑽会

※講演者の所属・役職は当時のものです。

回	開催日	講演者	所属	役職	演題名
1	2013年 5月 18日	神谷 和孝	北里大学眼科	准 教授	Hole ICLについて
		柴 琢也	東京慈恵会医科大学眼科学教室	講 師	プレミアム眼内レンズの注意点
		三戸岡 克哉	東京慈恵会医科大学附属第三病院	眼科診療部長	色の不思議 "患者さんにはどう見えているか?"
2	6月 15日	湖崎 淳	湖崎眼科	院 長	乱視の基礎
3	9月 21日	山田 直之	山口大学医学部眼科学教室	講 師	角膜ジストロフィ、その臨床所見と遺伝子所見の相関
		森重 直行	山口大学医学部眼科学教室	講 師	水疱性角膜炎の細胞生物学
4	12月 21日	平岡 孝浩	筑波大学医学部眼科学	講 師	小児の近視進行抑制法アップデート ～オルソケラトロジーを中心として～
		岡本 史樹	筑波大学医学部眼科学	講 師	網膜疾患の視機能 ～網膜剥離と黄斑前膜の変視と不等像視～
5	2014年 2月 14日	相馬 剛至	大阪大学大学院医学系研究科眼科	特任助教	生体適合性架橋剤を用いた角膜実質疾患治療の開発
		辻川 元一	大阪大学医学部眼科視覚再生医学寄附講座	教 授	AMDに対するワクチン療法の開発
6	8月 2日	鈴木 崇	愛媛大学医学部眼科	講 師	角膜感染症の攻略法 - 細菌・真菌編 -
		井上 智之	愛媛大学医学部眼科	講 師	角膜感染症の攻略法 - ヘルペス・アcantアメーバ編 -
7	2015年 5月 23日	川路 隆博	佐藤眼科	講 師	より簡便で安全な眼内レンズ強膜内固定術を目指して
		井上 俊洋	熊本大学眼科	講 師	緑内障薬物治療アップデート
8	2016年 7月 9日	結城 賢弥	慶應義塾大学医学部眼科学教室	専任講師	運転、交通事故と緑内障
		根岸 一乃	慶應義塾大学医学部眼科学教室	准 教授	白内障・屈折矯正手術と老視～最近の話題から
9	2017年 7月 29日	宮井 尊史	東京大学医学部眼科学教室	講 師	Fuchs角膜内皮変性症について
		小畑 亮	東京大学医学部眼科学教室	講 師	抗VEGF薬は大事でもそれだけじゃない、黄斑疾患の診断と治療
		本庄 恵	東京大学医学部眼科学教室	講 師	ROCK阻害薬とこれからの緑内障治療
10	12月 16日	森 洋斎	宮田眼科病院	診療部長	IOL度数計算式のアップデート
		鈴木 久晴	日本医科大学武蔵小杉病院	准 教授	実験的評価を基礎とした低侵襲白内障手術
		大内 雅之	大内眼科	院 長	理論と手技で乗り切る、破棄・合併症処理
		石井 清	さいたま市赤病院	部 長	点眼薬の早期眼内移行経路
		須藤 史子	東京女子医科大学東医療センター	教 授	糖尿病合併白内障手術のコツ
11	2019年11月 9日	永田 万由美	獨協医科大学病院	講 師	最近の眼内レンズと術後合併症
		小早川 信一郎	日本医科大学武蔵小杉病院	病院教授・部長	親水性眼内レンズの混濁・質者は歴史に学ぶ
		松島 博之	獨協医科大学病院	准 教授	疎水性アクリル眼内レンズ混濁の評価

累計 / 国内学会発表 959 件、海外学会発表 61 件 (2023年12月時点)

月	回	学会名	発表形式	演題名
10	77	日本臨床眼科学会	一般講演	外傷性黄斑孔の自然閉鎖後に嚢胞様黄斑浮腫を生じた1例
			一般講演	真菌性角膜炎の起炎菌同定におけるsemi-nested PSRの有用性の検討
			一般講演	ディフューザー写真で学習済みの角膜A1モデルにスリット写真を入力した際の精度検証
			一般講演	角膜をスマートフォンで撮影する際のガイドの有無になる拡大率の比較
			セミナー	白内障エビデンスクラブvol.4これでバッチリ！眼軸異常 短眼軸の白内障手術
			セミナー	日常診療に潜む診断・治療の落とし穴5 眼感染症
			セミナー	そうだ、行こう！MGD解説教室Part9 眼瞼炎の診断・治療～えっ！これって眼瞼炎？～
			一般講演	多施設共同研究による長眼軸眼における新世代眼内レンズ度数計算式の予測精度の検討
			セミナー	国産のフェイコマシオン&最新のIOL 新しい眼内レンズNSP-3のポテンシャルを探る
			一般講演	高含水率疎水性アクリルトリック眼内レンズの乱視矯正効果と効果に影響する要因
			シンポジウム	眼感染症のトリセツ～適切な初期対応～
			一般講演	10年以上のソフトコンタクトレンズ長期使用が角膜上皮細胞に与える影響
			シンポジウム	白内障手術における周術期滅菌法の問題と今後の展望
			パネルディスカッション	前眼部疾患トリアージ～治療のタイミングを逃さないために～
一般講演	多施設共同研究による短眼軸眼における新世代眼内レンズ度数計算式の予測精度の検討			
一般講演	眼内レンズ早期落下・偏位に関わる因子の検討			
9	34	日本緑内障学会	一般講演	プリモニジン酒石酸塩・プリンゾラムによる角膜混濁の1例
7	62	日本白内障学会総会 フォーサム2023	一般講演	100歳以上の患者における白内障手術の特徴と予後
			一般講演	細菌性角膜炎におけるStaphylococcus epidermidisの抗菌感受性の年齢別検討
			シンポジウム	JAOL塗抹検鏡スキルトランスファー
			シンポジウム	今回のガイドラインでの課題と将来の期待
6	38	JSCRS学術総会	パネルディスカッション	世界の最新トレンドを知ろう” What's New in 2023”IOL度数計算アップデート
			セミナー	術後軸回旋と対処法
			セミナー	ファインビジョンHPの魅力に迫る！～国内臨床試験の結果から～
			セミナー	最新のIOL度数計算(online calculatorを中心に)
			セミナー	白内障手術周術期の抗菌薬適正使用
			シンポジウム	知っておくべき臨床研究法
			一般講演	疎水性アクリル製3焦点眼内レンズの臨床試験成績
一般講演	強度角膜乱視眼の白内障術後屈折誤差に対しPiggyback補正後、良好な遠近裸視力が得られた1例			
一般講演	Vivinex眼内レンズにおける挿入後表面散乱の抑制効果			
5	93	九州眼科学会	セミナー	眼瞼炎治療に対するアジスロマイシン点眼液の効果
			シンポジウム	水疱性角膜炎に対するクロスリンキング
4	127	ARVO 日本眼科学会総会	一般講演	The effect of topical 0.05% cyclopentolate on asthenopia after cataract surgery
			一般講演	緑内障点眼薬3剤から緑内障点眼薬4剤(配合薬2種)への変更による眼圧変化
			一般講演	風疹ウイルス抗体率を検討したFuchs虹彩異色性虹彩毛様体炎の5例
			一般講演	眼表面の表皮ブドウ球菌のレボフロキサシン耐性率と宿主年齢の相関
			一般講演	白内障術後にみられるIOL挿入眼の調節微動
			シンポジウム	異常眼軸長の眼内レンズ度数計算
2	47	日本角膜学会総会	セミナー	角膜移植・屈折矯正手術後の感染症対策
1	46	日本眼科手術学会総会	セミナー	角膜内皮障害例の白内障手術
			セミナー	精度の高い乱視矯正を目指して～TORICのstability～
			セミナー	前眼部疾患の手術トリアージ介入の時期と術式 感染性角膜炎

医療法人明和会 宮田眼科病院

基本DATA

〒885-0051 宮崎県都城市蔵原町6-3

URL <https://www.miyata-med.ne.jp>

TEL 0986-22-1441  
(予約専用 0986-46-1200)

FAX 0986-24-2174

ACCESS

【JR】

JR日豊本線：西都城駅で下車

- 徒歩：約10～15分程度
- タクシー：約2～3分

JR日豊本線：都城駅で下車

- タクシー：約5分

都城駅には駅ホームにエレベーターが設置されています。

【自動車(高速道)】

- 宮崎市内 - 都城インター経由：約50分
- 鹿児島市内 - 都城インター経由：約80分
- 鹿児島市内 - 末吉財部インター経由：約60分

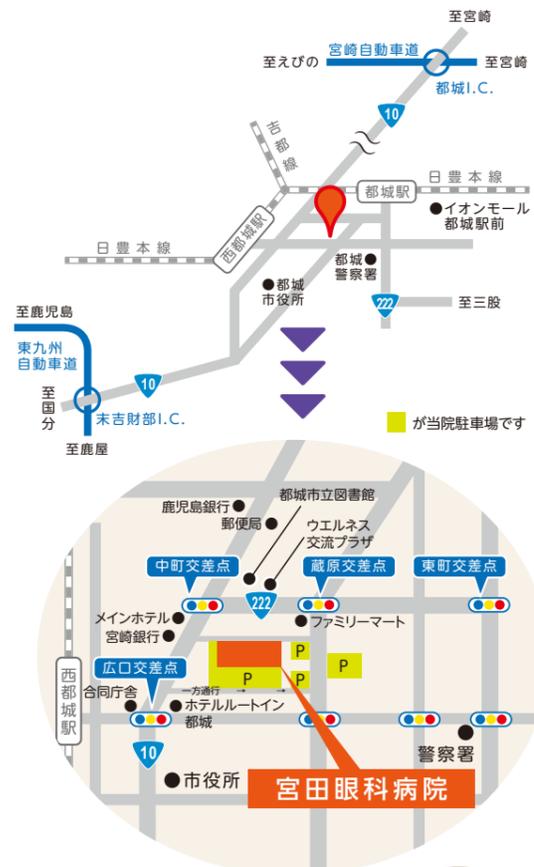
【最寄りの空港】

- 宮崎空港 - 高速バス：約55分  
⇒ 中央通3丁目バス停で下車：徒歩約2～3分
- 鹿児島空港 - 高速バス(乗継有)とタクシー：約80分

院内GUIDE

駐車場 喫茶室 入院施設 子供待合室 授乳室 ランドリー

- 6F ランドリールーム
- 5F 入院患者様専用食堂 講義室
- 4F 病室(個室・大部屋)
- 3F 病室(特別室・個室・大部屋) ※ベッド数 計71床
- 2F 手術室 日帰り手術患者様専用安静室 研究室 事務室
- 1F 受付・会計 検査室 診察室 レーザー室 臨床検査室
- 予約コーナー 薬剤室 Cafe212
- 眼鏡・コンタクトレンズ販売店



Cafe212

患者様のみならず、付き添われて来院された方々にも、待ち時間を快適に過ごしていただけるよう、院内にカフェを設置しています。ゆったりとした雰囲気、軽いお食事からデザートまで、メニューは全て手作りです。

診療について

診療時間 月～金曜日 8:30～17:30

土曜日 8:30～13:00

診療時間帯を4つの時間帯に分けてご予約を承っております。各診療時間帯別の受付時間は次の通りです。

区分	受付時間	月～金	土
午前1	8:00～10:00	○	○
午前2	10:00～12:00	○	○
午後1	13:00～14:30	○	—
午後2	14:30～16:30	○	—

休診日：日曜日、祝祭日、年末年始、お盆 ※上記以外の時間でも急患の場合は対応致します。

予約専用電話

0986-46-1200

予約電話受付時間

月～金曜日 / 8:30～17:30

土曜日 / 8:30～13:00

## 医療法人明和会 宮田眼科 鹿児島

### 基本DATA

〒890-0045  
鹿児島市武1丁目2-10  
JR鹿児島中央ビル  
アミュウイ  
AMU WE 2階

### URL

<https://kagoshima.miyata-med.ne.jp>

TEL 099-286-1213  
(予約専用 099-286-1233)

FAX 099-286-1190

### ACCESS

#### 【JR】

JR各線：鹿児島中央駅で下車  
改札を出て左側西口方面へ

●徒歩：約1分程度

鹿児島中央駅には駅ホームにエレベーターが設置されています。

#### 【市電】

市電：鹿児島中央駅で下車  
鹿児島中央駅2階より西口方面へ

●徒歩：約2分程度

#### 【自動車(高速道)】

鹿児島インター経由：約10分  
鹿児島北インター経由：約15分

#### 【最寄りの空港】

鹿児島空港 — 高速バス：約50分  
⇒ 鹿児島中央駅バス停で下車：徒歩約5分



#### 【提携駐車場について】

**P** アミュ東1・東2・西1・西2 駐車場と提携しております  
※西2駐車場はビルに直結しております

当院より**90分**のサービス券を提供いたします

JQカード会員の方、アミュプラザ・アミュウイでのお買い物で、さらに割引サービスがあります

### 診療について

診療時間 月～金曜日 9:00～17:30  
土曜日 9:00～13:00

診療時間帯を4つの時間帯に分けてご予約を承っております。各診療時間帯別の受付時間は次の通りです。

区分	受付時間	月～金	土
午前1	8:00～10:00	○	○
午前2	10:00～11:30	○	○
午後1	12:30～14:30	○	—
午後2	14:30～16:30	○	—

休診日：日曜日、祝祭日、年末年始、お盆

予約専用電話

**099-286-1233**

予約電話受付時間

月～金曜日 / 8:30～17:30  
土曜日 / 8:30～13:00

## 医療法人明和会 宮田眼科 東京

### 基本DATA

〒160-0004  
東京都新宿区四谷1丁目2-8  
四谷THビル6階

### URL

<https://tokyo.miyata-med.ne.jp/>

TEL 03-5315-4334 (代表)  
(予約専用 03-5315-0647)

FAX 03-5315-0687

### ACCESS

【JR中央線・総武線、  
東京メトロ丸ノ内線・南北線】

JR各線：四ツ谷駅  
赤坂口で下車  
●徒歩：約3分程度

#### 【都営バス】

宿75  
・新宿駅西口行き  
・三宅坂行き  
四谷一丁目下車  
●徒歩：約1分程度

お車でのお越しの際は、お近くのコインパーキングのご利用をお願いしています。



### 診療について

診療時間	月	火	水	木	金	土
9:30～13:00	—	○	○	○/手術	○	○
14:30～17:30	—	○	○	○/手術	○	○

※土曜日は午前中が9:00～12:30 午後が14:00～17:00となります。

休診日：日曜日、月曜日、祝祭日、年末年始、お盆

予約専用電話 **03-5315-0647**

予約電話受付時間 火～金曜日 / 9:30～18:00  
土曜日 / 9:00～17:30

### 医療連携室よりお知らせとお願い

平素より地域の医療連携施設として、宮田眼科病院・宮田眼科 鹿児島・宮田眼科 東京の医療活動にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。医療連携室では、ご協力をいただいている皆様との情報共有と、当院の新たな取り組みや最新設備をご紹介するため、年次報告書を発行いたしております。今後も正確な情報を心がけるため、貴施設名称や住所の変更あるいはスタッフ様のご異動などがございましたら、【医療連携室担当宛】に、何卒ご一報いただきますようご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

【お問い合わせ・連絡先】

医療法人明和会医療連携室（宮田眼科病院内）

医療連携室専用メール renkei@miyata-med.ne.jp

FAX 0986-24-2174 TEL 0986-22-1441